

Endeavor

LX7800

ユーザーズマニュアル

目次

はじめに

| | |
|-----------------|---|
| マニュアル中の表記 | 6 |
|-----------------|---|

使い始めるまでの準備

| | |
|-------------------|----|
| ご使用前に | 8 |
| ご使用前の確認事項 | 8 |
| 各部の名称と働き | 9 |
| 本体前面 | 9 |
| 本体背面 | 10 |
| FDD (オプション) | 11 |
| コンピュータの設置 | 12 |

システムの拡張

| | |
|---------------------------------|----|
| 拡張できる装置 | 20 |
| 作業時の注意 | 21 |
| 拡張時の準備作業 | 22 |
| 本体カバーの取り外し・取り付け | 22 |
| フロントパネルの取り外し・取り付け | 25 |
| 3.5型フェイスプレートの取り外し・取り付け | 26 |
| 5.25型フェイスプレートの取り外し・取り付け | 27 |
| メモリの装着 | 28 |
| メモリの仕様 | 28 |
| メモリ装着の組み合わせと順番 | 29 |
| メモリの取り付け・取り外し | 29 |
| メモリの増設・交換後の作業 | 33 |
| 拡張ボードの装着 | 34 |
| 拡張スロットの仕様 | 34 |
| 拡張ボードの取り付け・取り外し | 35 |
| 拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業 | 38 |
| ドライブ装置とコネクタの接続 (IDE装置の装着) | 39 |
| IDEコネクタ | 39 |
| S-ATAコネクタ | 41 |
| ドライブ装置の接続例 | 42 |

| | |
|-------------------------------|----|
| 3.5型ドライブの装着 | 43 |
| 3.5型ドライブの取り付け・取り外し .. | 43 |
| 3.5型ドライブの取り付け・取り外し後の作業 | 46 |
| 5.25型ドライブの装着 | 47 |
| 5.25型ドライブの取り付け・取り外し .. | 47 |
| 5.25型ドライブの取り付け・取り外し後の作業 | 50 |
| HDDの装着 | 51 |
| HDDの取り付け・取り外し | 51 |
| HDDの取り付け・取り外し後の作業 .. | 54 |

BIOSの設定

| | |
|------------------------------|----|
| BIOSの設定を始める前に | 56 |
| BIOS Setupユーティリティの操作 | 57 |
| BIOS Setupユーティリティの起動 | 57 |
| BIOS Setupユーティリティの操作 | 58 |
| BIOS Setupユーティリティの終了 | 60 |
| 設定値をもとに戻す | 61 |
| Passwordを設定する | 62 |
| 起動 (Boot) デバイスの順番を変更する | 65 |
| BIOS Setupユーティリティの設定項目 | 67 |
| Mainメニュー画面 | 68 |
| Advancedメニュー画面 | 69 |
| Power メニュー画面 | 71 |
| Bootメニュー画面 | 72 |
| Exitメニュー画面 | 74 |
| BIOSの設定値 | 74 |

付録

| | |
|-----------------------|----|
| お手入れ | 78 |
| 本機のお手入れ | 78 |
| リチウム電池の交換 | 79 |
| CMOS RAMの初期化 | 82 |
| コンピュータ内部のケーブル接続 | 84 |
| 警告メッセージが表示されたら | 85 |
| 機能仕様一覧 | 86 |

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

マニュアル中の表記

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。



参考事項です。
覚えておくと便利なことを記載しています。



本書とは別のマニュアルを示します。
例) 『梱包品の確認』: 本機に添付の『梱包品の確認』を示します。



参照先を示します。



操作手順です。
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。



□ で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。
◀ はEnterキーを表します。また、**N** は **N_み** のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。



＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。
この例では、**Ctrl** を押したまま **Z** を押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

| | |
|-----------|--------------------------|
| HDD | ハードディスクドライブ |
| FD | フロッピーディスク |
| FDD | フロッピーディスクドライブ |
| 光ディスクメディア | CDメディア、DVDメディア |
| 光ディスクドライブ | 光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称 |

使い始めるまでの準備

各部の名称と働きや本機の設置方法について説明します。

ご使用前に

▶ご使用前の確認事項

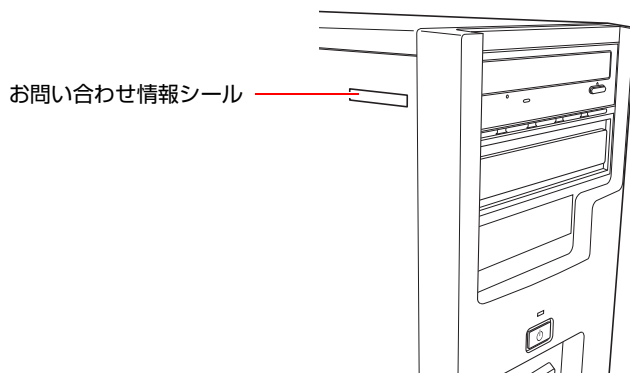
貼付シールの確認

本機には、製品情報が記載された次のシールが貼られています。本機をご使用前に、シールが貼られていることを確認してください。シールは絶対にはがさないでください。

●お問い合わせ情報シール

お問い合わせ情報シールには、型番や製造番号が記載されています。当社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

お問い合わせ情報シールに記載されている製造番号は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）の表紙に書き写しておいてください。



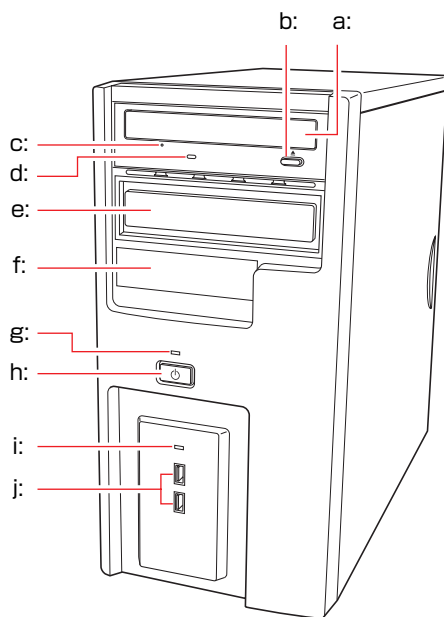
サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。





困ったときや、万一の場合に備えてお読みいただくことをおすすめします。

各部の名称と働き

▶ 本体前面



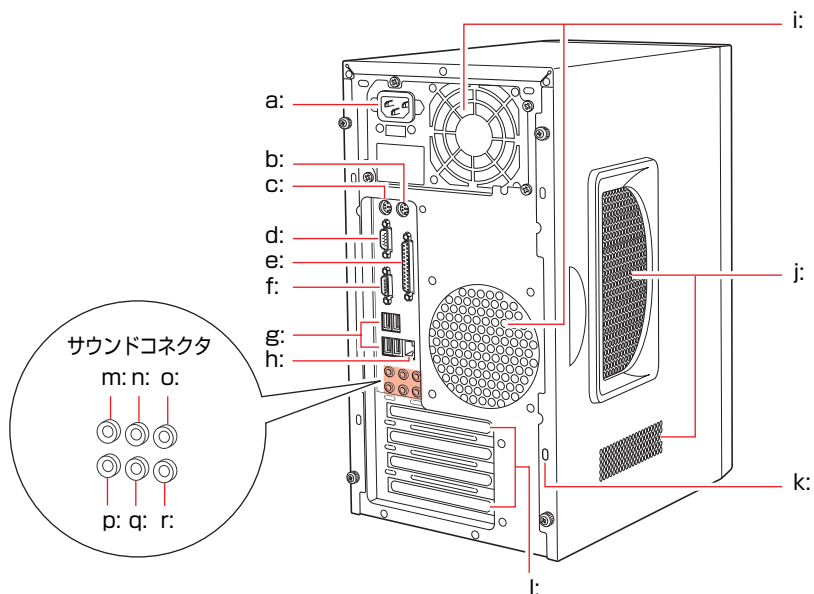
- a: 光ディスクドライブ
CD-ROMなどの光ディスクメディアの読み込みを行います。
- b: 光ディスクドライブイジェクトボタン
ディスクトレイの開閉を行います。
- c: 光ディスクドライブイジェクトホール
ディスクトレイが開閉しなくなったときに使用します。
- d: 光ディスクドライブアクセスランプ
光ディスクメディアへのアクセス中に点灯・点滅します。
- e: 5.25型ドライブベイ
5.25型のドライブ装置を取り付けます。

- f: 3.5型ドライブベイ
3.5型のドライブ装置を取り付けます。
- g: 電源ランプ 
電源を入れると点灯します。
- h: 電源スイッチ 
本機の電源の入/切を行います。
- i: HDDアクセスランプ 
HDDへのアクセス中に、点灯・点滅します。
- j: USBコネクタ 
USB2.0対応の周辺機器を接続します。




アクセスランプが点灯しているときに本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。データが破損するおそれがあります。

▶ 本体背面




a: 電源コネクタ


添付の電源コードを接続して電気を供給します。

b: マウスコネクタ 


マウスを接続します。

c: キーボードコネクタ 


キーボードを接続します。

d: シリアルコネクタ 


モデムなど、RS-232Cインタフェースに対応した装置を接続します。

e: パラレルコネクタ 


プリンタや、スキャナなどパラレルコネクタに対応した装置を接続します。

f: VGAコネクタ 

アナログ方式のディスプレイとVGA（アナログ）ケーブルで接続します。

g: USBコネクタ 

USB2.0対応の周辺機器を接続します。

h: LANコネクタ 

LANケーブルを接続します。

i: 冷却ファン

内部で発生する熱を逃したり、冷ましたりします。

j: 通風孔


外気を取り入れます。

k: セキュリティロックスロット


市販の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）を取り付けます。

l: 拡張スロット


拡張ボードを装着します。

m: サイドスピーカ出力コネクタ 

サイドスピーカと接続して音声を出力します。

n: リアスピーカ出力コネクタ 


リアスピーカと接続して音声を出力します。

o: センタースピーカ/サブウーファ出力コネクタ 


センタースピーカ、サブウーファと接続して音声を出力します。

p: マイク入力コネクタ 

マイクと接続して音声を入力します。

q: フロントスピーカ/ライン出力コネクタ 

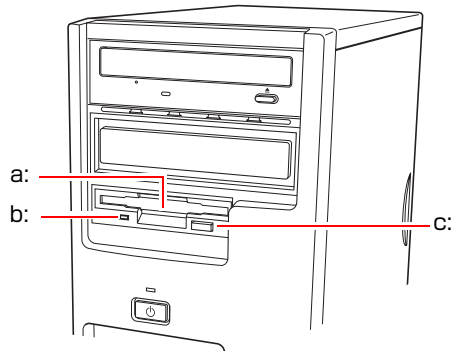
フロントスピーカやヘッドフォンなどと接続して音声を出力します。
通常、スピーカはこのコネクタに接続します。

r: ライン入力コネクタ 

オーディオ機器と接続して音声を入力します。

▶FDD (オプション)

本機購入時にFDDをオプション選択された場合、本機にはあらかじめFDDが装着されています。



a: 3.5型FDD

3.5型FDのデータの読み込み、書き込みを行います。

b: FDDアクセスランプ

FDに読み書きを行っているときに点灯します。

c: FDDイジェクトボタン

FDDにセットしたFDを取り出すときに押します。

コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器の接続は、Linuxのセットアップ完了後に、周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。



設置における注意



注意

- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置する際は、次の点を守ってください。
 - ・ 押し入れや本箱などの風通しの悪いところに設置しない。
 - ・ じゅうたんや布団の上に設置しない。
 - ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、『安全にお使いいただくために』（別冊）に記載の注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード（ケーブル）接続時の注意



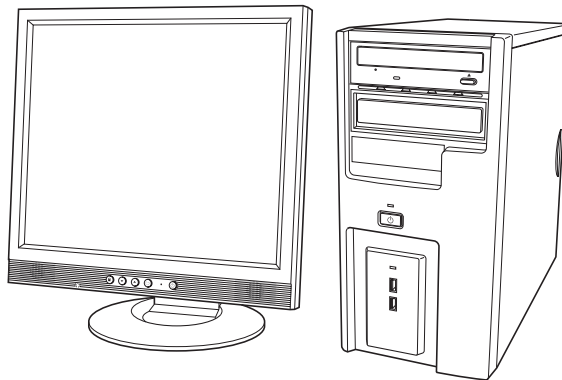
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



- 各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。
- ヘッドフォンやスピーカを使用するときは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。ボリュームの調節が大きくなっているとかわぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

設置

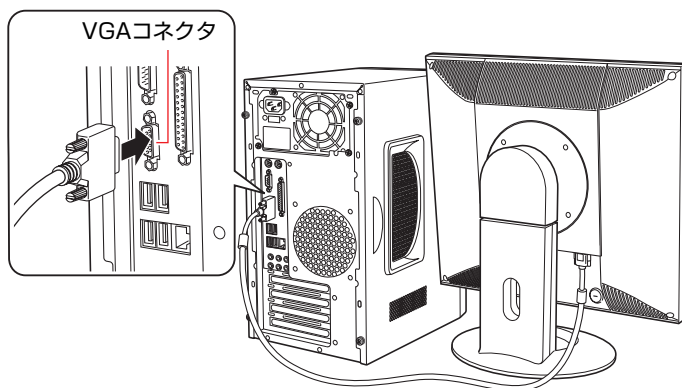
- 1 本機とディスプレイを設置場所（机などの丈夫で水平な台の上）に置きます。本機は横置きで使用できません。必ず縦置きでお使いください。設置した際に通風孔をふさがないようにしてください。



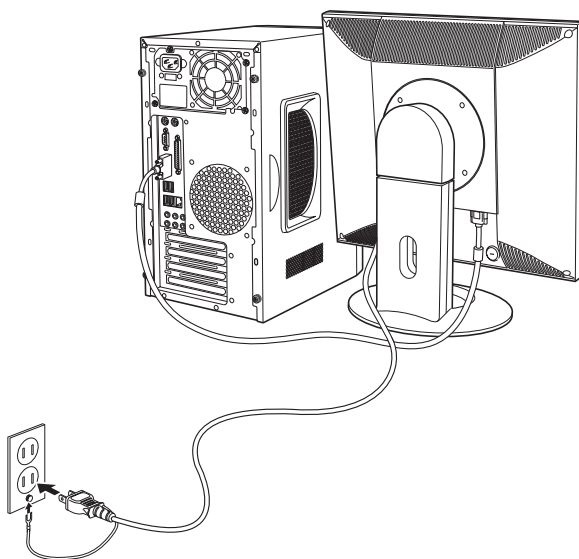
ディスプレイの接続

ディスプレイ側の接続方法や注意事項などの詳細は、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

- 2 ディスプレイのVGAケーブルを、本機背面のVGAコネクタ（青色）に接続します。



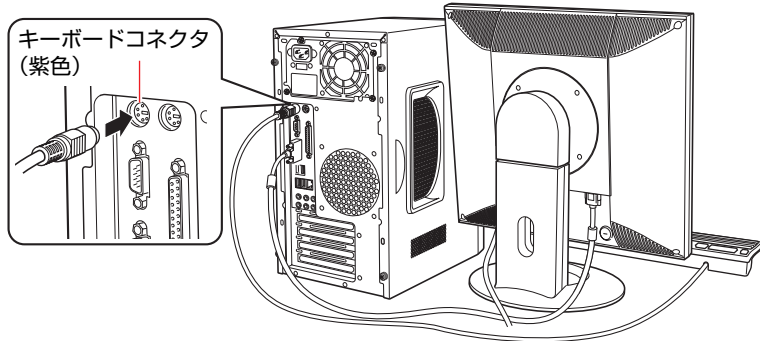
- 3 ディスプレイの電源コードを家庭用電源コンセントに接続します。



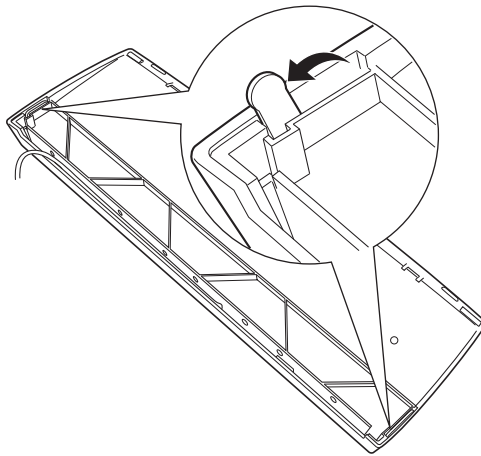
キーボードの接続

4 キーボードを接続します。

キーボードケーブルのコネクタを本機背面のキーボードコネクタ（紫色）に接続します。



キーボードは操作しやすい位置に置き、傾斜させるときはキーボード底面の両端の脚を起こします。



マウスの接続

5 マウスを接続します。

マウスケーブルのコネクタを本機背面のマウスコネクタ（緑色）に接続します。



スピーカの接続

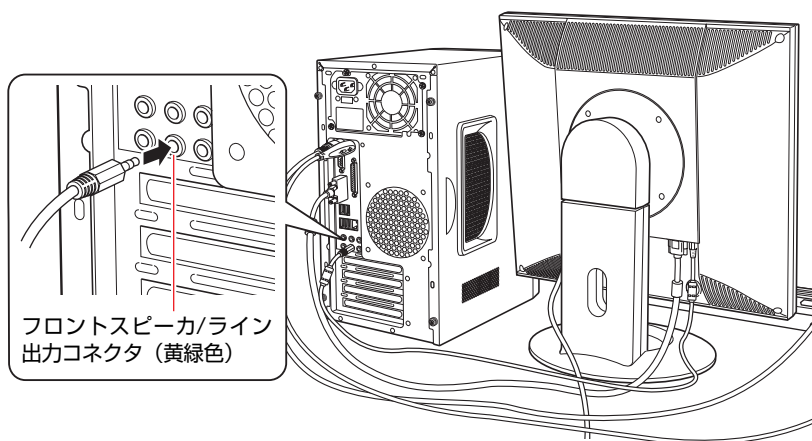
本機にスピーカは内蔵されていません。音声を出力したい場合は、スピーカやスピーカが搭載されているディスプレイなどを接続してください。

ここでは一般的な接続方法を説明します。

詳しくはディスプレイやスピーカに添付のマニュアルをご覧ください。

6 ディスプレイやスピーカのオーディオケーブルを本機背面のサウンドコネクタに接続します。

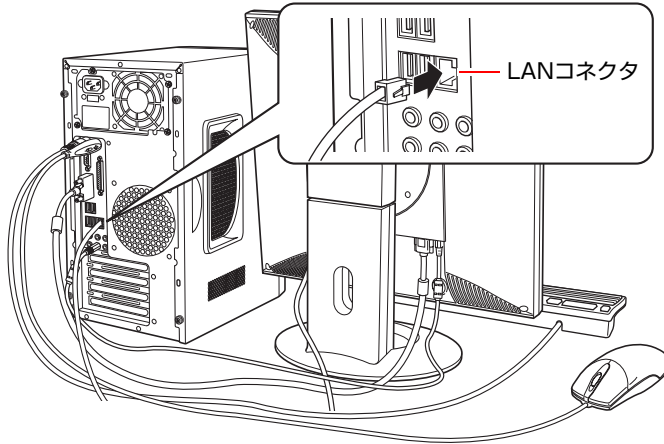
スピーカにより、接続するオーディオケーブルの数は異なります。オーディオケーブルが1本の場合は、フロントスピーカ/ライン出力コネクタ（黄緑色）に接続します。



ネットワークへの接続

- 7** ネットワークに接続できる環境で、ネットワーク機能を使用する場合は、市販のLANケーブルをLANコネクタ（品）に接続します。

インターネットへの接続作業はLinuxのセットアップ後に行います。接続方法は、通信サービス会社やプロバイダから提供されたマニュアルをご覧ください。



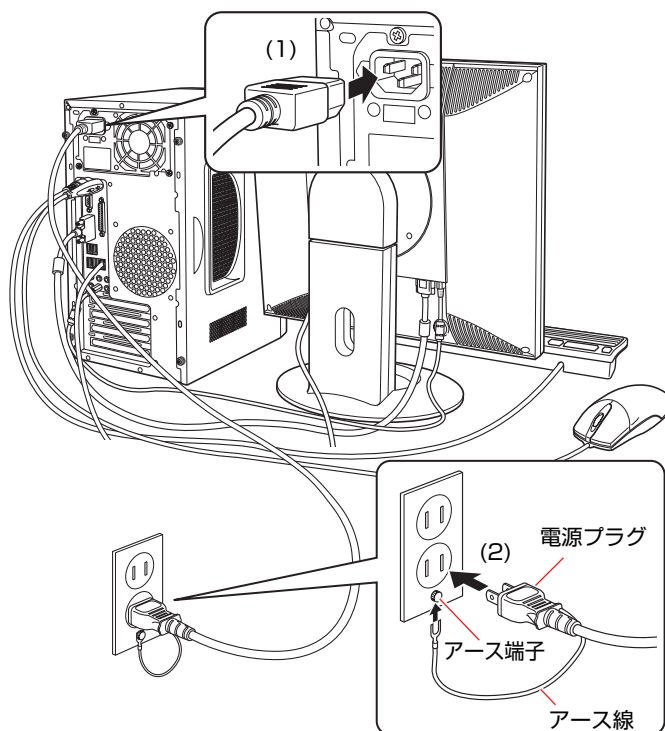
電源コードの接続

8 電源コードを接続します。

(1) 電源コードを本機背面の電源コネクタに接続します。

(2) 電源プラグを家庭用電源コンセントに接続します。

アース線は、必ずコンセントのアース端子に接続してください。



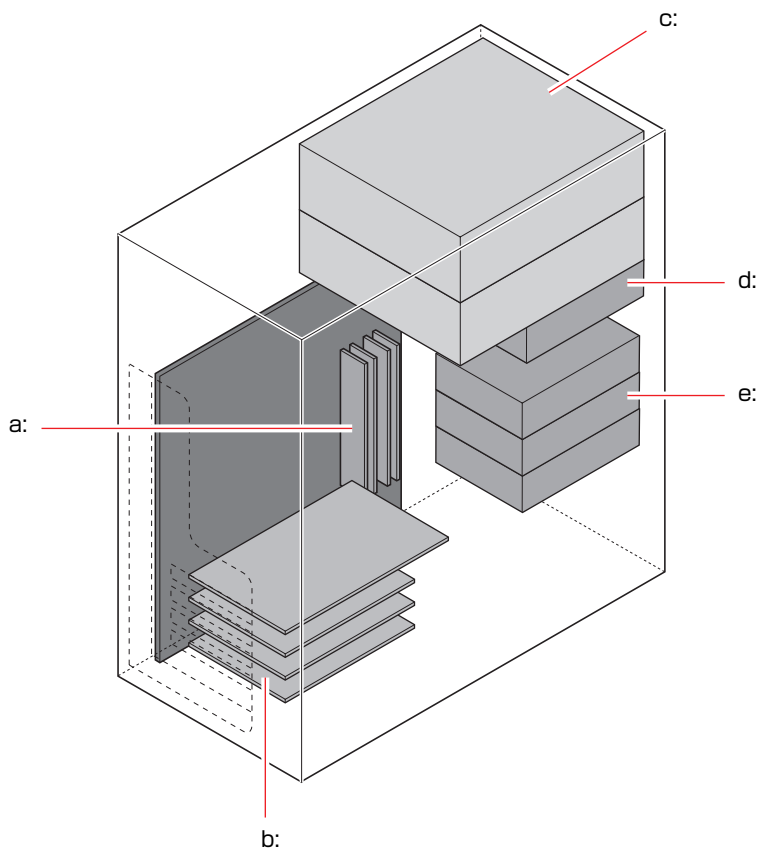
これで本機の設置は完了です。

システムの拡張

装置の増設・交換方法について説明します。


拡張できる装置

本機では、次の各部に装置を増設・交換して機能を拡張することができます。ただし、購入時にいくつかの装置がすでに装着されているため、実際に拡張できる装置の数は異なります。



a: メモリスロット


メモリを4枚（最大3GBまで）装着することができます。

 p.28 「メモリの装着」

b: 拡張スロット

次の拡張ボードを装着することができます。

- ・ PCI Express x16ボード 1枚
- ・ PCIボード 3枚

 p.35 「拡張ボードの取り付け・取り外し」


c: 5.25型ドライブベイ

5.25型の装置（光ディスクドライブなど）を2台装着することができます。

 p.47 「5.25型ドライブの装着」


d: 3.5型ドライブベイ

3.5型の装置（FDDなど）を1台装着することができます。

 p.43 「3.5型ドライブの装着」

e: HDDベイ

S-ATA仕様の3.5型HDDを3台装着することができます。

 p.51 「HDDの装着」

作業時の注意

コンピュータ内部に装置を装着する場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



- コンセントに電源プラグを接続したまま作業をしないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- 装置の増設・交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- 本機の電源を切っても電源プラグがコンセントに接続されていると微少な電流が流れています。作業を始める前に必ずコンセントから電源プラグを外してください。
- 本機から周辺機器を必ず取り外してください。
- 取り付けを行う際は、取り付ける装置に添付されているマニュアルを必ず参照してください。
- 本機内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリや拡張ボードを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- 装置は落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリや拡張ボードの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

拡張時の準備作業

装置の拡張作業を行う場合は次の準備作業が必要です。各装置の拡張手順に従って、必要に応じて作業を行ってください。



コンセントに電源プラグを接続したまま作業をしないでください。
感電・火傷の原因となります。

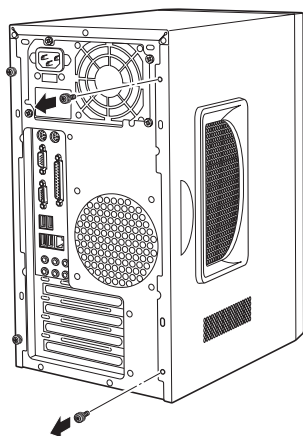
▶ 本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部に装置を装着する場合は、本体カバーを外してください。
ここでは左側のカバーの取り外し・取り付け手順を説明します。右側のカバーの場合も手順は同様です。

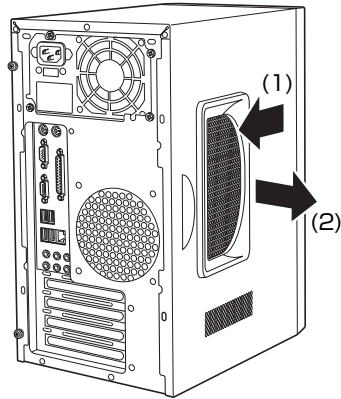
取り外し

本体カバーの取り外し方法は次のとおりです。

- 1** コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体左背面のネジ（2本）を外します。



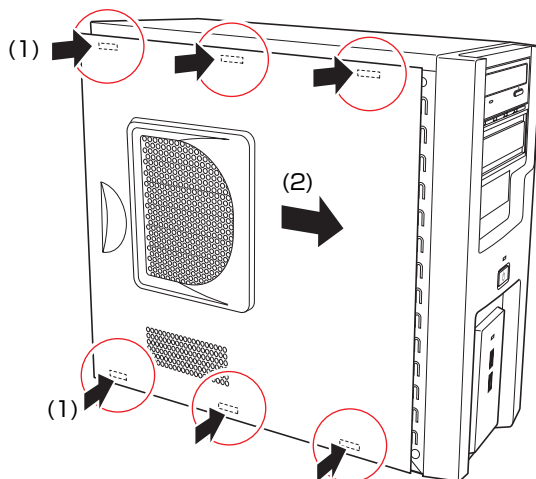
- 4** 本体カバーを取り外します。
- (1) 本体カバーを本体背面側にスライドさせます。
 - (2) 本体カバーを横へ外します。



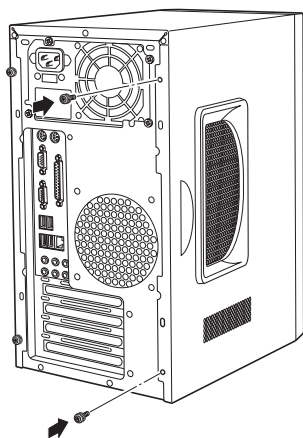
取り付け

本体カバーの取り付け方法は次のとおりです。

- 1 本体カバーを取り付けます。**
 - (1) 本体側面の穴（6個）とカバーの突起（6個）の位置を合わせて、本体カバーを横からかぶせます。
 - (2) 本体カバーを本体前面側にスライドさせます。



- 2 ネジ（2本）で本体カバーを固定します。**



- 3 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。**

これで本体カバーの取り付けは完了です。


▶フロントパネルの取り外し・取り付け

本機の内部に装着する装置によっては、フロントパネルを取り外す必要があります。

取り外し

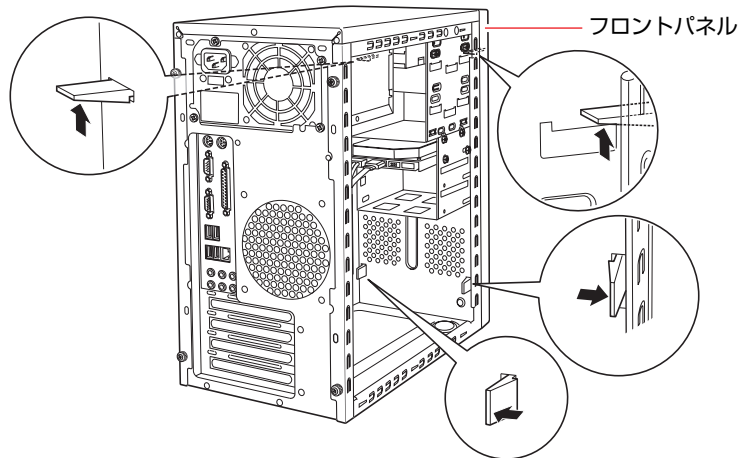
フロントパネルの取り外し方法は次のとおりです。

- 1 本体カバー（左右両側）を取り外します。

 p.22 「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 2 フロントパネルを取り外します。

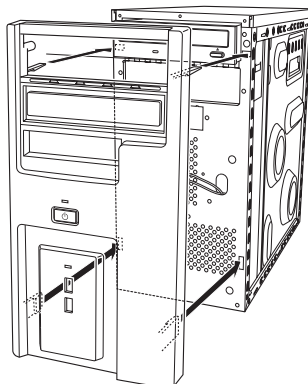
上部2つのフックを上へ、下部2つのフックを外側へ押しながら、前面からフロントパネルを引き抜きます。



取り付け

フロントパネルの取り付け方法は次のとおりです。

- 1 フロントパネルのフックを本体の穴に合わせて、フロントパネルを押し込みます。



▶3.5型フェイスプレートの取り外し・取り付け

3.5型のドライブ装置（FDDなど）を増設する場合は、3.5型フェイスプレートを取り外します。また、3.5型のドライブ装置を外した後、何も取り付けない場合は、コンピュータ内部にホコリが入らないようにフェイスプレートを取り付けます。

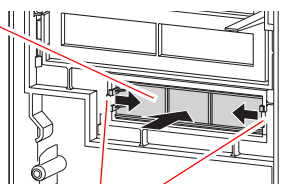
取り外し

3.5型フェイスプレートの取り外し方法は次のとおりです。

- 1 フロントパネルの裏側からフェイスプレート両側のフックを外し、フェイスプレートを押し出します。

外したフェイスプレートは大切に保管してください。

3.5型フェイス
プレート

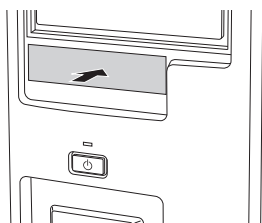


フック

取り付け

3.5型フェイスプレートの取り付け方法は次のとおりです。

- 1 フロントパネルの表側から、フェイスプレートを押し込みます。



▶5.25型フェイスプレートの取り外し・取り付け

5.25型のドライブ装置（光ディスクドライブなど）を増設する場合は、5.25型フェイスプレートを取り外します。また、5.25型のドライブ装置を外した後、何も取り付けない場合は、コンピュータ内部にホコリが入らないようにフェイスプレートを取り付けます。

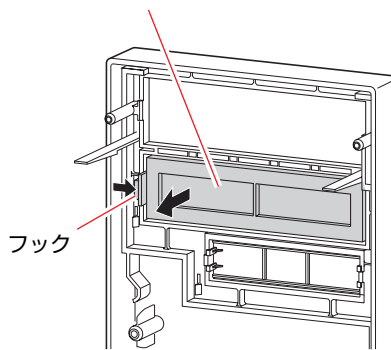
取り外し

5.25型フェイスプレートの取り外し方法は次のとおりです。

- 1 フロントパネルの裏側からフェイスプレートのフックを外し、表側からフェイスプレートを押し出します。

外したフェイスプレートは大切に保管してください。

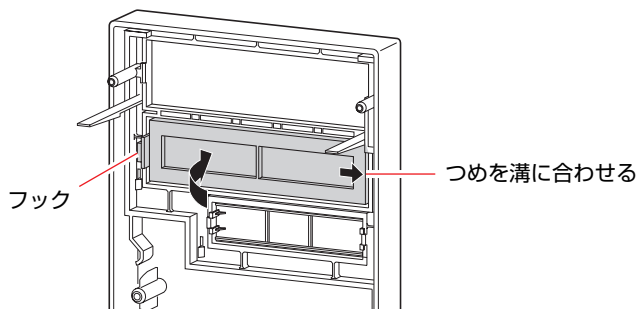
5.25型フェイスプレート



取り付け

5.25型フェイスプレートの取り付け方法は次のとおりです。

- 1 フェイスプレートのつめをフロントパネルの溝に合わせ、フック側をカチッと音がするまで押し込みます。



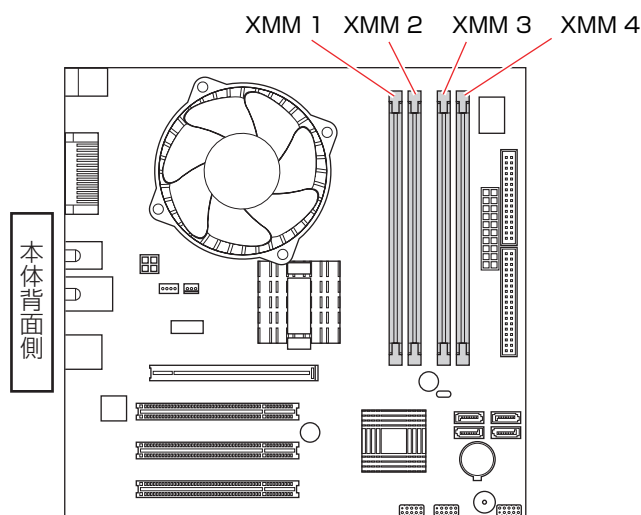
メモリの装着

本機で使用可能なメモリの仕様と、メモリの取り付け・取り外し方法について説明します。

▶メモリの仕様

本機にはメモリスロットが4つあり、メモリを増設・交換することにより最大3GB（1024MB×2+512MB×2）まで拡張できます。

メモリはXMM 4スロットから取り付けます。購入時、XMM 4スロットにはあらかじめメモリが取り付けられています（購入時の選択により、メモリの容量と枚数は異なります）。



本機で使用可能なメモリは、次のとおりです。

- PC2-4200（DDR2-533 SDRAM使用）
- メモリ容量 256MB、512MB、1024MB
- Non ECC
- 240ピン
- CL=4

最新メモリ情報

今後、新しいメモリを取り扱う場合があります。
本機で使用可能な最新のメモリは、当社ホームページでご確認ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。

<http://epsondirect.jp/>

▶メモリ装着の組み合わせと順番

本機のメモリスロットにメモリを装着する場合は、次の点に注意して装着してください。


- メモリはXMM 4スロットから取り付けます。
- メモリを2枚以上装着する場合は、同一容量のメモリを2枚1組で装着してください。本機は同一容量のメモリを2枚1組で使用することにより、高速なメモリ転送速度を実現しています。

なお、メモリを4枚装着する場合、1組目と2組目の容量が異なっていても問題はありません。

メモリを2枚以上装着する場合の組み合わせと順番は、次のとおりです。




| メモリ装着順 | メモリスロット |
|--------|---------------------|
| 1組目 | XMM 2スロット+XMM 4スロット |
| 2組目 | XMM 1スロット+XMM 3スロット |

▶メモリの取り付け・取り外し

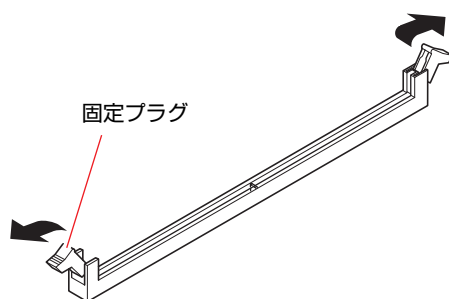
作業を始める前に  p.21 「作業時の注意」を必ずお読みください。作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

取り付け

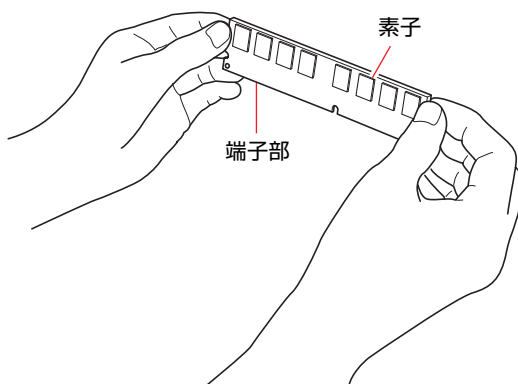
メモリの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバー（左側）を取り外します。
 p.22 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** PCI Express x16スロットに拡張ボードが装着されていて作業の妨げになる場合は、拡張ボードを外します。
 p.35 「拡張ボードの取り付け・取り外し」
- 5** HDDキャリアを取り外します。
 p.51 「HDDの取り付け・取り外し」

6 メモリスロットの固定プラグを開きます。

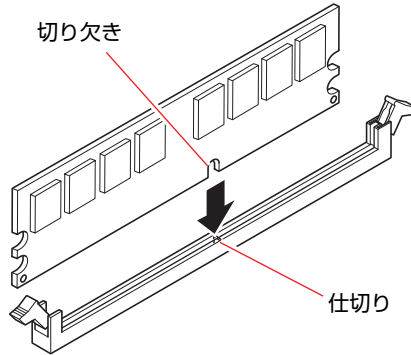


7 メモリを静電防止袋から取り出します。
メモリの端子部や素子に触れないように注意します。



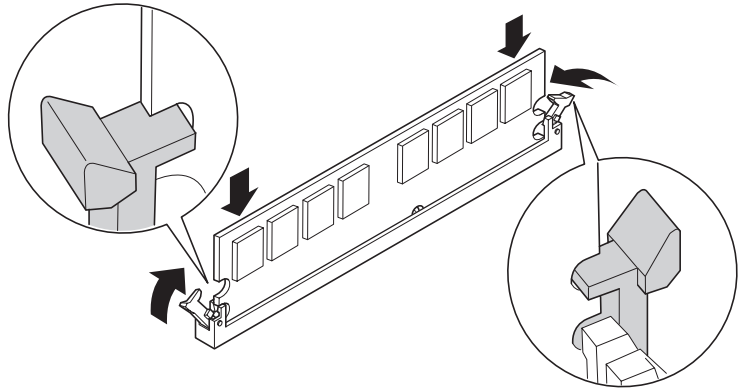
8 メモリスロットにメモリを差し込みます。


(1) メモリの切り欠きをメモリスロット内の仕切りに合わせます。




(2) メモリを押し込むと、カチッと自動的に固定プラグが閉じてメモリが固定されます。

必ずメモリが固定されたことを確認してください。


**9** HDDキャリアを取り付けます。

 p.51 「HDDの取り付け・取り外し」


10 手順4で拡張ボードを外した場合は、もとどおりに装着します。

 p.35 「拡張ボードの取り付け・取り外し」


11 本体カバーを取り付けます。

 p.22 「本体カバーの取り外し・取り付け」

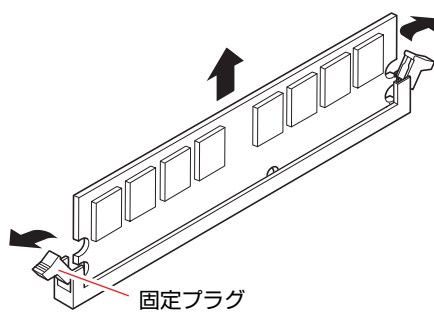
12 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。**13** コンピュータの電源を入れて、メモリの容量を確認します。

 p.33 「メモリの増設・交換後の作業」

取り外し

メモリの取り外しは、 p.29 「取り付け」の手順6～8を次の手順に読み替えて行ってください。

- 1** メモリの両端を固定している固定プラグを開きます。




- 2** メモリが外れたら静かに取り外します。
静電気防止袋に入れて保管してください。
- 3** 固定プラグを閉じておきます。

▶メモリの増設・交換後の作業

メモリの増設・交換をしたら、メモリが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリの容量を確認します。

メモリ容量の確認方法は次のとおりです。

- 1 コンピュータの電源を入れたら、**Delete** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.58 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 2 「Main」メニュー画面－「System Information」－「Installed Memory」に表示されているメモリ容量を確認します。

メモリ容量が正しく表示されない場合は、メモリが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付けなおしてください。



参考

メモリ容量の表示

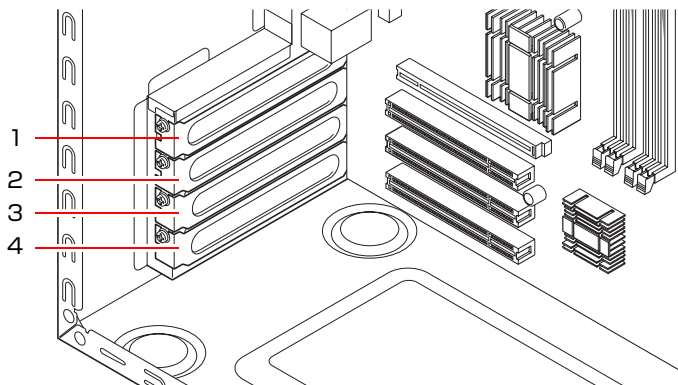
本機では、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。そのため、メモリ容量は、メインメモリからビデオメモリ16MBを引いた値が表示されます。

拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と、拡張ボードの取り付け・取り外し方法について説明します。

▶拡張スロットの仕様

本機には拡張スロットが4つあります。各スロットの仕様は次のとおりです。




| スロット番号 | コネクタ仕様 | 装着可能な拡張ボードサイズ |
|--------|-----------------|----------------------|
| 1 | PCI Express x16 | ボード長230mmまで |
| 2 | PCI | ボード長190mmまで |
| 3 | PCI | ボード長312mm (フルサイズ) まで |
| 4 | PCI | ボード長312mm (フルサイズ) まで |

▶ 拡張ボードの取り付け・取り外し




拡張スロットには機器の性能を維持するため鋭いエッジがあります。手を傷つけないように作業してください。

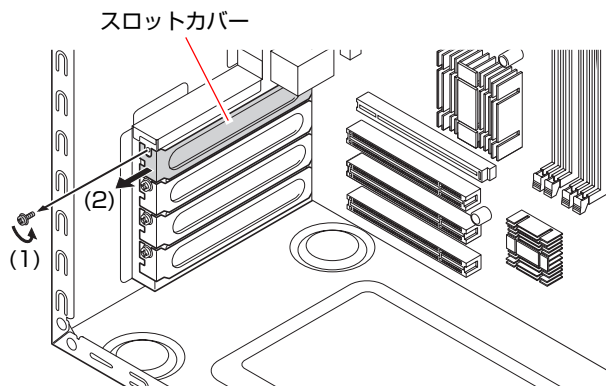
作業を始める前に  p.21 「作業時の注意」と拡張ボードに添付のマニュアルを必ずお読みください。

作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

取り付け

拡張ボードの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバー（左側）を取り外します。
 p.22 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** 拡張ボードを装着するスロットのスロットカバーを外します。
(1) スロットカバーを固定しているネジを外します。
(2) スロットカバーを手前に引き抜きます。



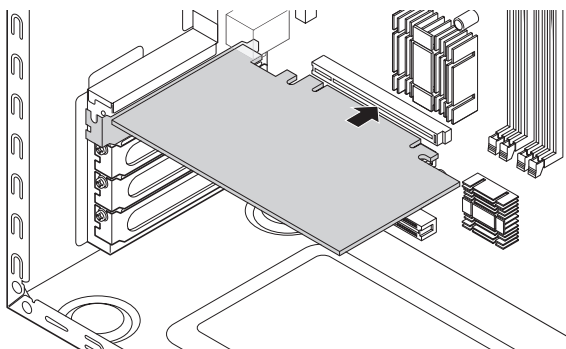
外したスロットカバーは、大切に保管してください。拡張ボードを外したあと、別の拡張ボードを装着しない場合は、本体内部にホコリなどが入らないように、再びスロットカバーを装着します。

5 拡張ボードを取り付けます。

<通常のボードの場合>

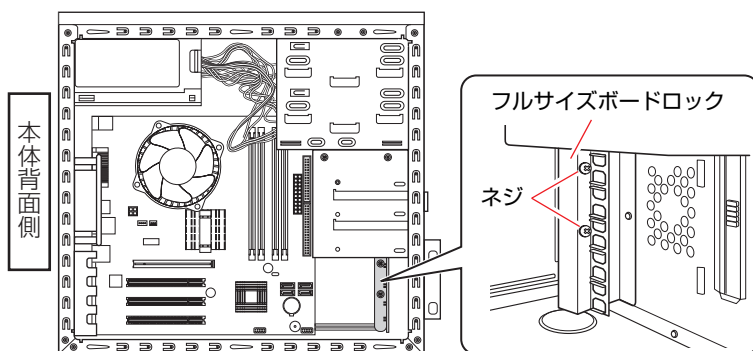
拡張ボードを差し込みます。

拡張ボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認して、ゆっくり押し込みます。

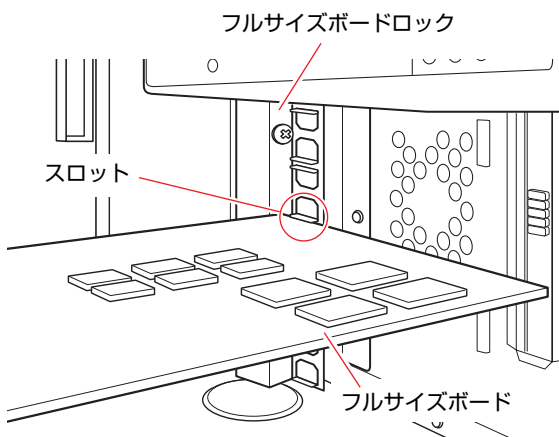


<フルサイズ (312mm) のボードの場合>

(1) フルサイズボードロックのネジ (2本) をゆるめます。



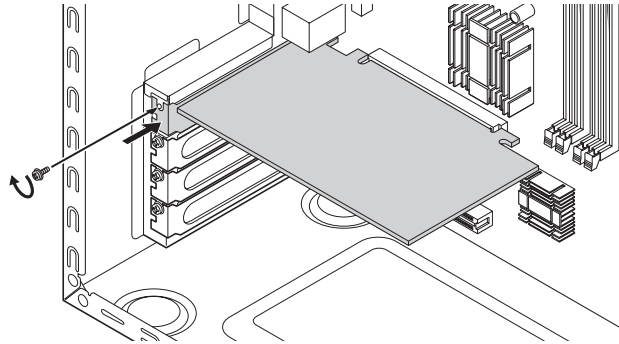
(2) フルサイズボードロックのスロットにボードを差し込み、<通常のボードの場合>と同じように、端子部をコネクタに差し込みます。




(3) ネジ (2本) を締めて固定します。


6 拡張ボードをネジで固定します。

拡張ボードによっては、コンピュータ内部のコネクタとのケーブル接続が必要な場合があります。拡張ボードに添付のマニュアルで確認してください。


**7 本体カバーを取り付けます。**

 p.22 「本体カバーの取り外し・取り付け」

8 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続けて  p.38 「拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

取り外し

拡張ボードの取り外しは、 p.35 「取り付け」の手順4～6を次の手順に読み替えて行ってください。

1 拡張ボードを固定しているネジを外します。

フルサイズのボードの場合は、フルサイズボードロックのネジをゆるめま
す。

2 拡張ボードを引き抜きます。**3 拡張ボードを取り外したスロットに別の拡張ボードを装着しないときは、ス
ロットカバーを取り付けておきます。**

手順1でフルサイズボードロックのネジをゆるめた場合は、ネジを締めてお
きます。

▶ 拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業

拡張ボードの取り付け・取り外しをしたら、次の作業を行ってください。

- **ビデオボードの場合**


ビデオボードの取り付け・取り外しをした場合、BIOSなどの設定は必要ありませんが、ボードによってはドライバのインストール、アンインストールが必要です。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

- **サウンドボードの場合**

サウンドボードの取り付け・取り外しを行った場合は、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面－「Interated Peripherals」－「Onboard Audio」

| ボード | メインボード上のサウンド機能 |
|---------|----------------|
| 取り付けた場合 | Disabled（無効） |
| 取り外した場合 | Enabled（有効） |

 p.58 「BIOS Setupユーティリティの操作」


ボードによってはドライバのインストール、アンインストールが必要です。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

- **ネットワークボードの場合（無線LANボードを除く）**

ネットワークボードの取り付け・取り外しを行った場合は、BIOS Setupユーティリティの次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面－「Interated Peripherals」－「Onboard LAN Controller」

| ボード | メインボード上のネットワーク機能 |
|---------|------------------|
| 取り付けた場合 | Disabled（無効） |
| 取り外した場合 | Enabled（有効） |

 p.58 「BIOS Setupユーティリティの操作」

ボードによってはドライバのインストール、アンインストールが必要です。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

- **その他のボードの場合**

拡張ボードによっては作業が必要な場合があります。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

ドライブ装置とコネクタの接続 (IDE装置の装着)

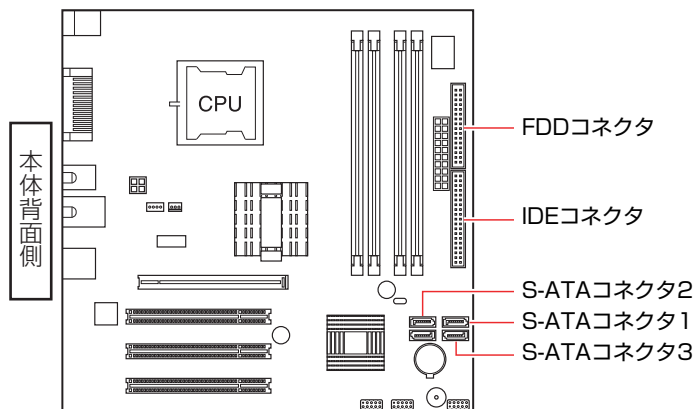
ここでは、メインボード上のコネクタの仕様とドライブ装置の接続方法について説明します。

本機のメインボード上で使用できるコネクタは次のとおりです。各コネクタには、それぞれの規格に対応したドライブ装置を接続することができます。

| コネクタ | 数量 | 接続できる装置 |
|-----------|----|--------------------|
| FDDコネクタ | 1個 | FDDを1台接続可能 |
| IDEコネクタ | 1個 | 光ディスクドライブなどを2台接続可能 |
| S-ATAコネクタ | 3個 | HDDを3台接続可能 |

各コネクタの位置は次のとおりです。

メインボード



▶IDEコネクタ

本機のIDEコネクタには、光ディスクドライブなどIDE仕様のドライブ装置を2台接続することができます。

優先順位の設定

IDEコネクタに接続する2台の装置には優先順位 (マスタ・スレーブ) を設定してください。順位の設定を誤ると、装置がコンピュータに認識されない場合があります。

マスタ・スレイブの設定方法

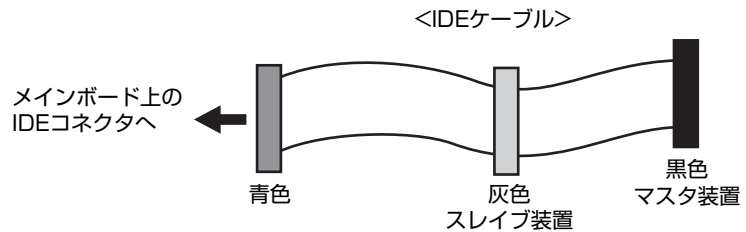
マスタ・スレイブの設定方法には、次の2つがあります。

- 装置側のジャンプスイッチで、それぞれ「マスタ」「スレイブ」を設定する。
この場合、IDEケーブル側での設定は不要です。
- 装置側のジャンプスイッチで「ケーブルセレクト」を設定し、接続するIDEケーブル側で「マスタ」、「スレイブ」を決定する。

ジャンプスイッチの位置や設定方法は、ドライブ装置に添付のマニュアルを参照してください。

IDEケーブル

本機のIDEコネクタに接続しているケーブルは、「IDEケーブル」です。
IDEケーブルは、次のように接続します。



▶S-ATAコネクタ

S-ATAは、IDEに比べて、高速でデータ転送を行うことができます。それぞれのS-ATAコネクタには、S-ATA HDDを1台ずつ接続できます。コネクタの優先順位は、次のとおりです。

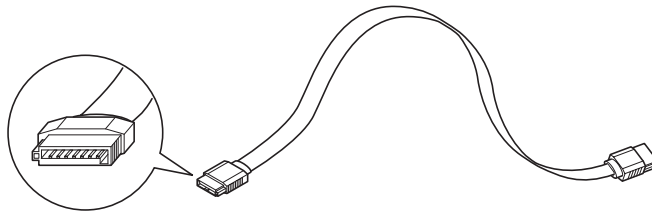
| 順位 | コネクタ |
|----|------------|
| 1 | S-ATAコネクタ1 |
| 2 | S-ATAコネクタ2 |
| 3 | S-ATAコネクタ3 |



Linuxは、S-ATAコネクタ1に接続されたHDDにインストールしてください。

S-ATAケーブル

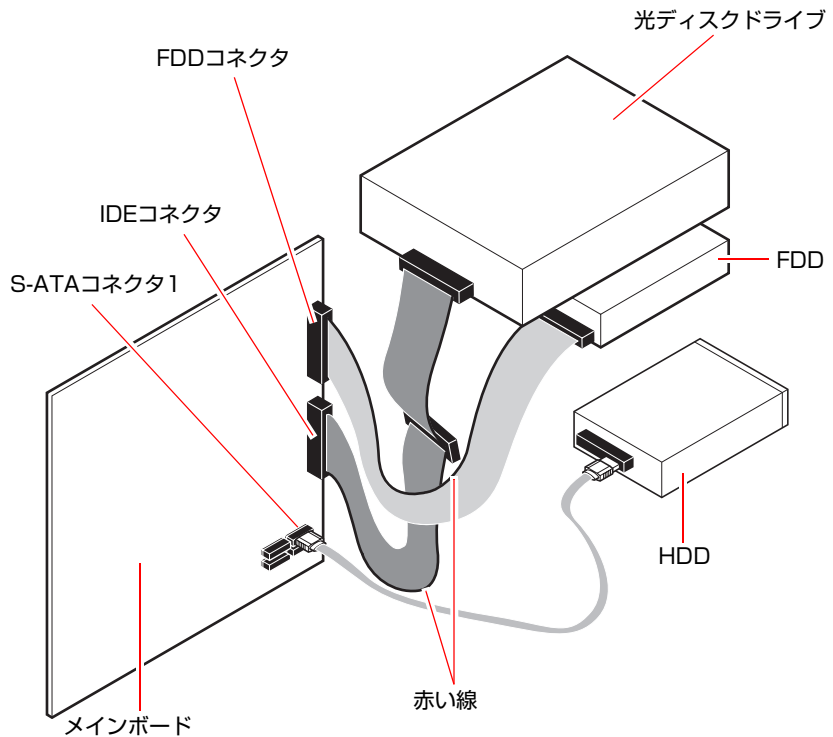
S-ATA HDDとメインボード上のS-ATAコネクタは、「S-ATAケーブル」で接続します。S-ATAケーブルは、コネクタの向きに合わせて接続してください。S-ATAケーブルの両端のコネクタの形状は同じです。



▶ドライブ装置の接続例

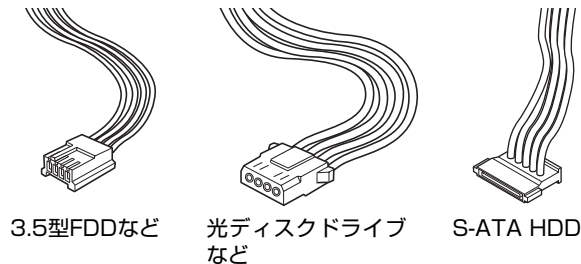
メインボードとの接続

ドライブ装置とメインボードを接続する一般的な方法は、次のとおりです。ドライブ装置を増設または交換する際には、ドライブ装置に添付のマニュアルもあわせてご覧ください。



周辺機器用電源ケーブル


電源ユニットには、ドライブベイに装着する装置に電源を供給するための周辺機器用電源ケーブルがついています。周辺機器用電源ケーブルの各コネクタの形状と、接続するドライブ装置は次のとおりです。



3.5型ドライブの装着

3.5型ドライブ（FDDなど）の取り付け・取り外し方法について説明します。





▶3.5型ドライブの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.21 「作業時の注意」と、機器に添付のマニュアルを必ずお読みください。

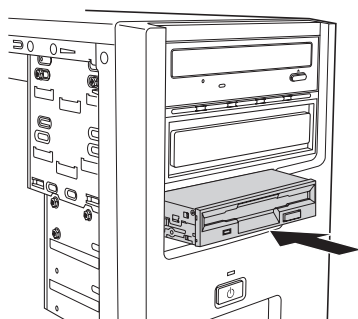
作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

取り付け

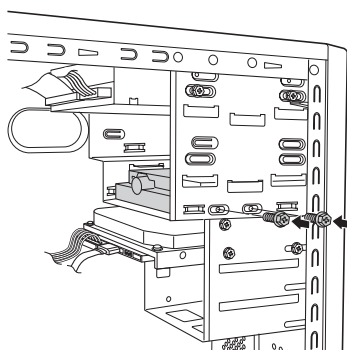
3.5型ドライブの取り付け方法は次のとおりです。ここでは3.5型のFDDを取り付ける方法を説明します。

- 1** 装着する装置に添付のマニュアルを参照して、装置に対して必要な作業（ジャンプスイッチやディップスイッチの設定など）を行います。
- 2** コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 3** コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 4** 本体カバー（左側）を取り外します。
 p.22 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 5** 3.5型フェイスプレートを取り外します。
すでに装着されている装置を交換する場合は、この作業は必要ありません。
 - (1)** フロントパネルを取り外します。
 p.25 「フロントパネルの取り外し・取り付け」
 - (2)** 3.5型フェイスプレートを取り外します。
 p.26 「3.5型フェイスプレートの取り外し・取り付け」
 - (3)** フロントパネルを取り付けます。
 p.25 「フロントパネルの取り外し・取り付け」

- 6** 装置を3.5型ドライブベイに押し込みます。

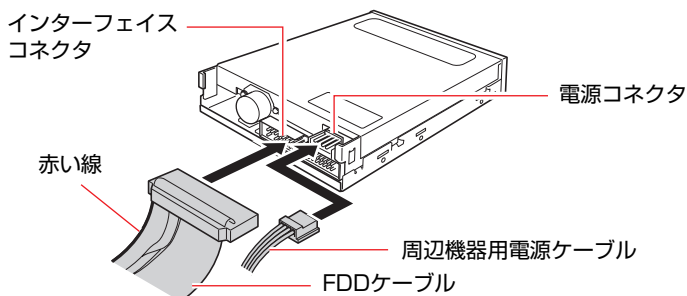


- 7** 装置のネジ穴をドライブキャリアのネジ穴に合わせて、ネジ（2本）で固定します。




- 8** FDDケーブルを装置のインターフェイスコネクタとメインボード上のFDDコネクタに接続し、周辺機器用電源ケーブルを装置の電源コネクタに接続します。


メインボード上のコネクタ位置は、 p.39 「ドライブ装置とコネクタの接続（IDE装置の装着）」で確認してください。




- 9** 本体カバーを取り付けます。

 p.22 「本体カバーの取り外し・取り付け」

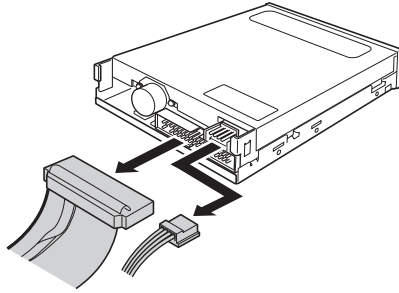
- 10** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続けて  p.46 「3.5型ドライブの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

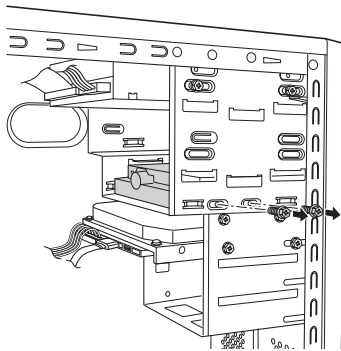
取り外し

3.5型ドライブの取り外しは、 p.43 「取り付け」の手順5～8を、次の手順に読み替えて行ってください。

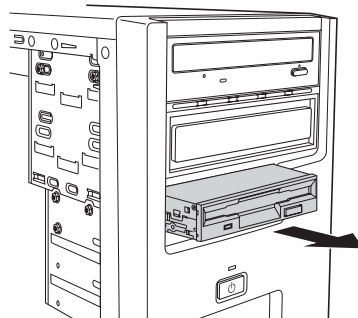
- 1 装置に接続されているケーブル類を外します。



- 2 装置を固定しているネジ（2本）を外します。



- 3 装置を引き抜きます。



- 4 3.5型フェイスプレートを取り付けます。

 p.26 「3.5型フェイスプレートの取り外し・取り付け」

ほかの装置を取り付ける場合は、この作業は必要ありません。

▶3.5型ドライブの取り付け・取り外し後の作業


3.5型ドライブ（FDDなど）の取り付け・取り外しを行った場合は、次の作業を行ってください。

- FDDの場合

FDDの取り付け・取り外しを行った場合は、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Main」メニュー画面－「Legacy Diskette A」

| 状 態 | 設 定 |
|---------|-------------|
| 取り付けた場合 | 1.44M,3.5in |
| 取り外した場合 | Disabled |

 p.58 「BIOS Setupユーティリティの操作」


- そのほかの3.5型ドライブの場合

上記以外の3.5型ドライブの取り付け・取り外しを行った場合は、3.5型ドライブに添付のマニュアルをご覧になり、必要な作業を行ってください。

5.25型ドライブの装着

5.25型ドライブ（光ディスクドライブなど）の取り付け・取り外し方法について説明します。

▶5.25型ドライブの取り付け・取り外し


作業を始める前に  p.21 「作業時の注意」と、「機器に添付のマニュアル」を必ずお読みください。

作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

取り付け

5.25型ドライブの取り付け方法は次のとおりです。ここでは2台目の光ディスクドライブを取り付ける方法を説明します。

- 1 装着する装置に添付のマニュアルを参照して、装置に対して必要な作業（ジャンプスイッチの設定など）を行います。**


 p.39 「IDEコネクタ」

- 2 コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。**

作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。

- 3 コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。**

- 4 本体カバー（左側）を取り外します。**

 p.22 「本体カバーの取り外し・取り付け」


- 5 5.25型フェイスプレートを取り外します。**

すでに装着されている装置を交換する場合は、この作業は必要ありません。

- (1) フロントパネルを取り外します。**

 p.25 「フロントパネルの取り外し・取り付け」

- (2) 5.25型フェイスプレートを取り外します。**

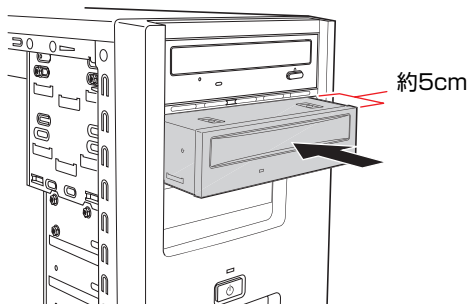
 p.27 「5.25型フェイスプレートの取り外し・取り付け」

- (3) フロントパネルを取り付けます。**

 p.25 「フロントパネルの取り外し・取り付け」

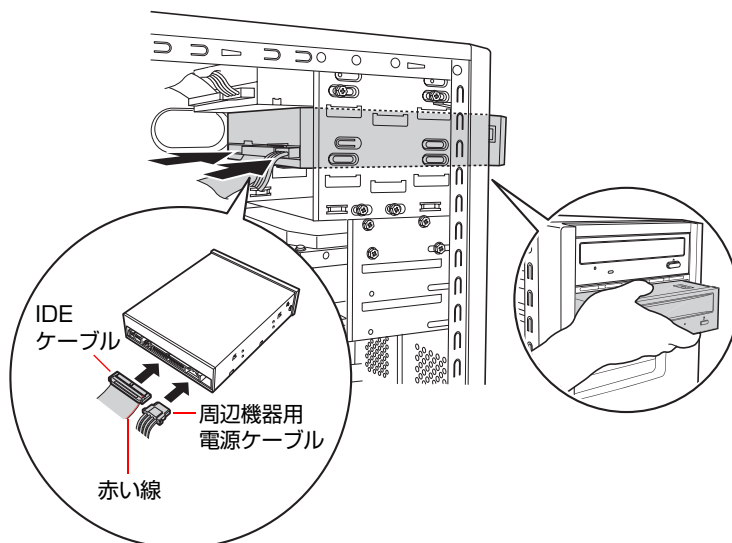
- 6 装置を5.25型ドライブベイに押し込みます。**

このとき、装置を前面側に5cm程出しておきます。



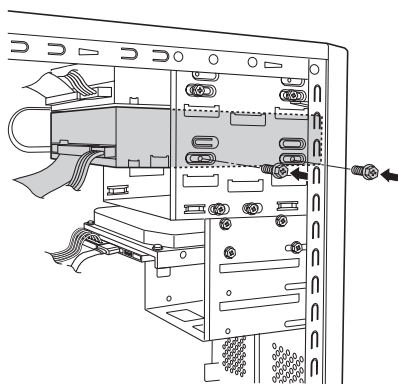
7 右手で装置を固定し、装置にIDEケーブルと周辺機器用電源ケーブルを接続します。

すでに装着されている1台目の装置が作業の妨げになる場合は、装置のネジ（2本）を外し、前面側に移動させて空間を作ります。




8 さらに装置を押し込み、装置のネジ穴をドライブキャリアのネジ穴に合わせて、ネジ（2本）で固定します。


手順7で、すでに装着されている1台目の装置を前面側に移動させた場合は、元の位置に戻し、ネジ（2本）で固定します。




9 本体カバーを取り付けます。

 p.22 「本体カバーの取り外し・取り付け」

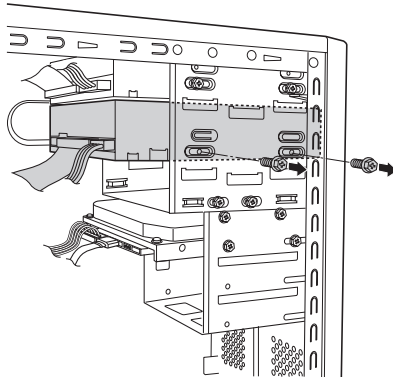
10 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続けて  p.50 「5.25型ドライブの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

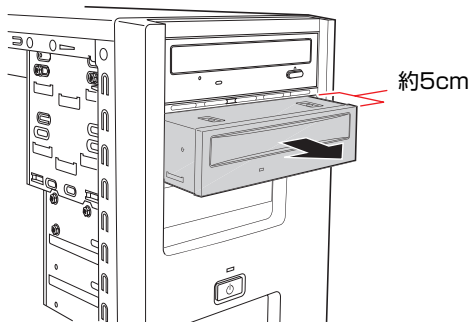
取り外し

5.25型ドライブの取り外しは、 p.47 「取り付け」の手順5～8を、次の手順に読み替えて行ってください。

- 1 装置を固定しているネジ（2本）を外します。

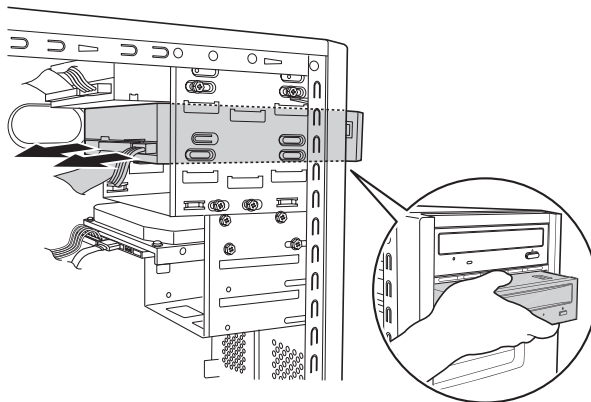


- 2 装置を前面側に5cm程移動させます。



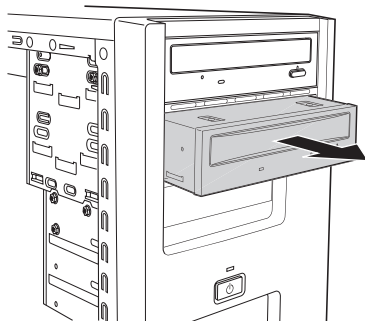
- 3 右手で装置を固定し、装置に接続されているケーブル類を外します。

1台目の装置が作業の妨げになる場合は、装置のネジ（2本）を外し、前面側に移動させて空間を作ります。



4 装置を引き抜きます。

手順3で、1台目の装置を前面側に移動させた場合は、元の位置に戻し、ネジ(2本)で固定します。



5 5.25型フェイスプレートを取り付けます。

ほかの装置を取り付ける場合は、この作業は必要ありません。

(1) フロントパネルを取り外します。

 p.25 「フロントパネルの取り外し・取り付け」

(2) 5.25型フェイスプレートを取り付けます。

 p.27 「5.25型フェイスプレートの取り外し・取り付け」

(3) フロントパネルを取り付けます。

 p.25 「フロントパネルの取り外し・取り付け」


▶5.25型ドライブの取り付け・取り外し後の作業

5.25型ドライブによっては、取り付け・取り外し後に作業が必要な場合があります。詳しくは、ドライブに添付のマニュアルをご覧ください。

HDDの装着


HDDの取り付け・取り外し方法について説明します。

▶HDDの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.21 「作業時の注意」と、「機器に添付のマニュアル」を必ずお読みください。


作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

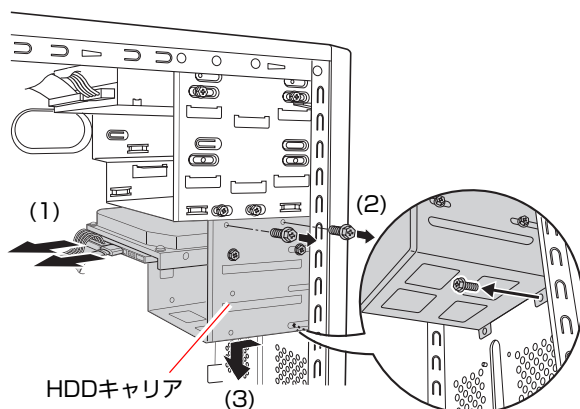


- 本機にIDE仕様のHDDは接続できません。
- HDDへのアクセス制限を設定している場合は、次の項目でアクセス制限を解除してからHDDの増設を行ってください。
「Bootメニュー画面」 - 「Security」 - 「Hard Disk Protection」
 p.58 「BIOS Setupユーティリティの操作」

取り付け

HDDの取り付け方法は次のとおりです。ここでは2台目のHDDを取り付ける方法を説明します。

- 1** コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバー（左側）を取り外します。
 p.22 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** HDDキャリアを本体から取り外します。
 - (1) 装着されている1台目のHDDに接続されているケーブル類を外します。
 - (2) 本体ケースとHDDキャリアを固定しているネジ（3本）を外します。
 - (3) HDDキャリアを矢印のとおりはずらして取り外します。



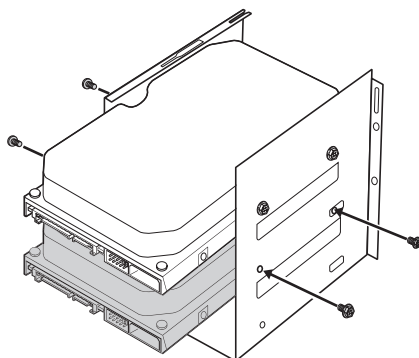
5 HDDキャリアにHDDを取り付けます。

(1) 取り付けるHDDを装着されている1台目のHDDと同じ向きにし、HDDキャリアに差し込みます。

うまく挿入できない場合は、装着されている1台目のHDDの片側のネジをゆるめてください。

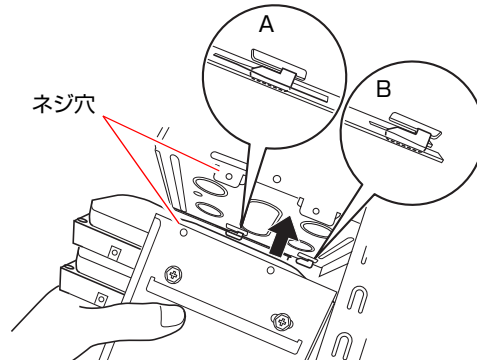
(2) HDDのネジ穴をHDDキャリアのネジ穴に合わせて、ネジ（4本）で固定します。

(1) で1台目のHDDのネジをゆるめた場合は、ネジを締めます。

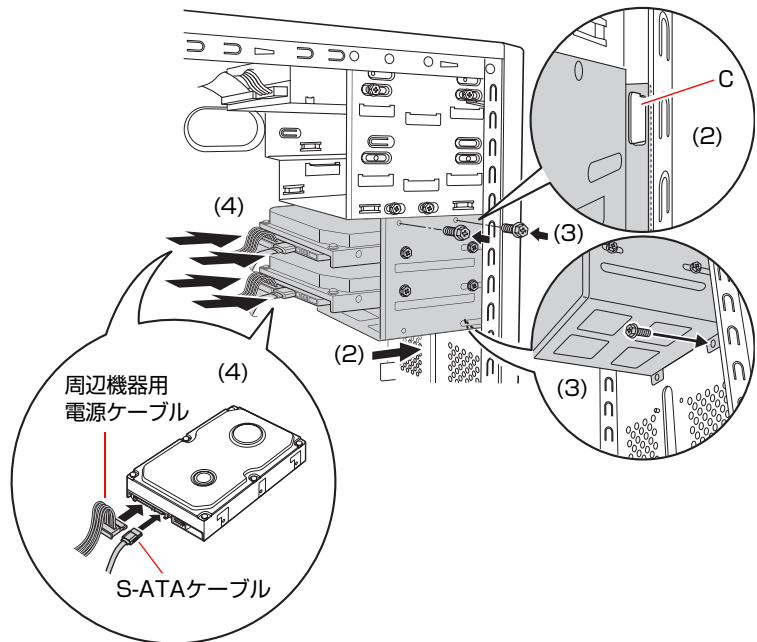


6 HDDキャリアを本体に取り付けます。

(1) 奥はHDDキャリア側の切込みを本体側のツメA、Bに合わせ、手前はHDDキャリアのネジ穴部分を本体のネジ穴部分にかぶせます。




(2) HDDキャリアを本体前面側にスライドさせ、HDDキャリアの穴を本体側のツメCに差し込みます。




(3) HDD キャリアのネジ穴に本体のネジ穴を合わせて、ネジ（3本）で固定します。


(4) S-ATAケーブルを、HDDのコネクタとメインボード上のS-ATAコネクタに接続し、周辺機器用電源ケーブルを、HDDの電源コネクタに接続します。

メインボード上のコネクタ位置は、 p.39「ドライブ装置とコネクタの接続（IDE装置の装着）」で確認してください。


7 本体カバーを取り付けます。

 p.22 「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 8 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

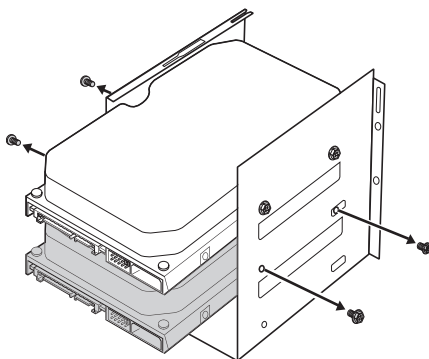
続けて  p.54 「HDDの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

取り外し

HDDの取り外しは、 p.51 「取り付け」の手順5を次の手順に読み替えて行ってください。

- 1 HDDキャリアからHDDを取り外します。

HDDキャリアとHDDを固定しているネジ（4本）を外し、HDDキャリアからHDDを外します。



▶HDDの取り付け・取り外し後の作業

HDDの取り付け・取り外しをしたら、次の作業を行ってください。

- HDDを取り付けた場合
HDDを取り付けた場合は、ドライブの作成を行ってください。
- HDDを取り外した場合
HDDを取り外し、ほかのHDDを取り付けない場合は、S-ATAケーブルをメインボードから取り外し、大切に保管してください。

BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に



制限

当社製以外の BIOS を使用すると、Linux が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合


BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。

BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約3年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。


 p.79 「リチウム電池の交換」

動作が不安定になったら


設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す。

万一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.67 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」

- 初期値や、前回保存した設定値に戻す。

 p.61 「設定値をもとに戻す」

BIOS Setupユーティリティの操作

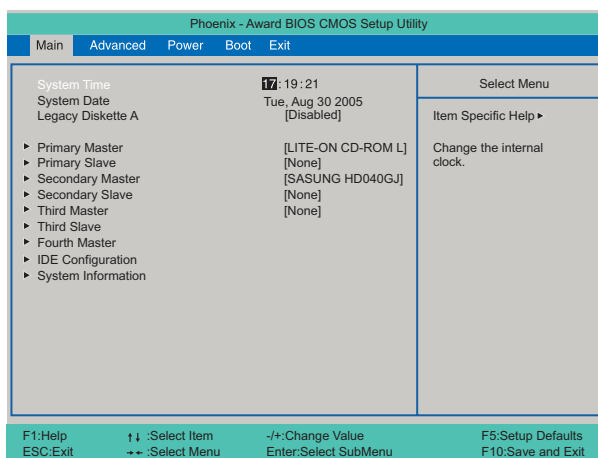
ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値をもとに戻す
- Passwordを設定する
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

▶ BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **Delete** の位置を確認してください。
手順2ではすばやく **Delete** を押す必要があります。

- 1 本機の電源を入れます。**
すでにLinuxが起動している場合は再起動します。
- 2 本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの **Delete** を押します。**
Linuxが起動してしまった場合は、再起動し、手順2をもう1度実行してください。
- 3 「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。**




< BIOS Setupユーティリティ画面（イメージ） >

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合は、本機の電源を入れたときに、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to continue, DEL to enter SETUP

このメッセージが表示されたら **[Delete]** を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常は、そのまま「Save & Exit Setup」を実行してBIOS Setupユーティリティを終了します。

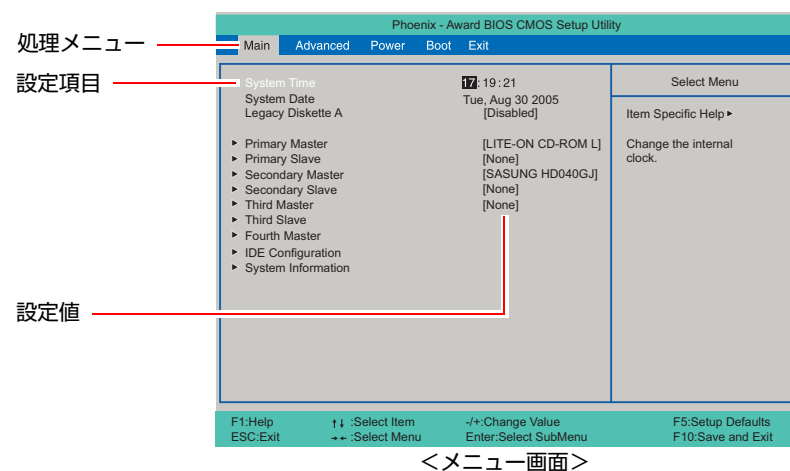
 p.60 「BIOS Setupユーティリティの終了」


▶ BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

BIOS Setupユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。



ここで説明している画面は、イメージです。実際の設定項目とは異なります。各メニュー画面と設定項目の説明は、 p.67 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

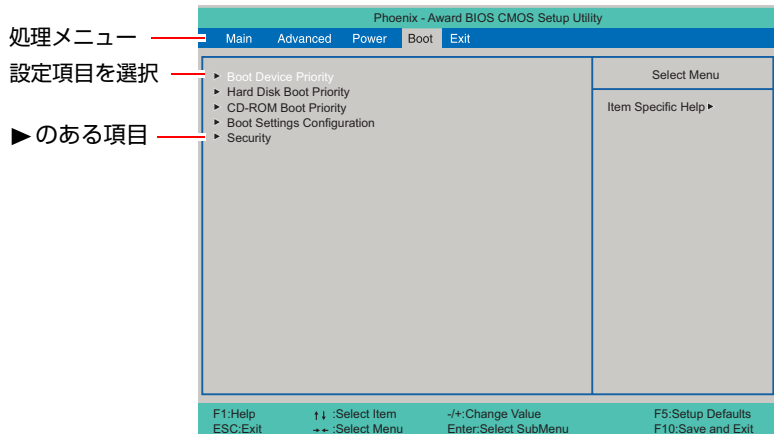
操作方法

BIOS Setupユーティリティの設定値を変更する方法は次のとおりです。

1 処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

→ ← でメニュー間を移動します。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。



<▶のある項目の場合>

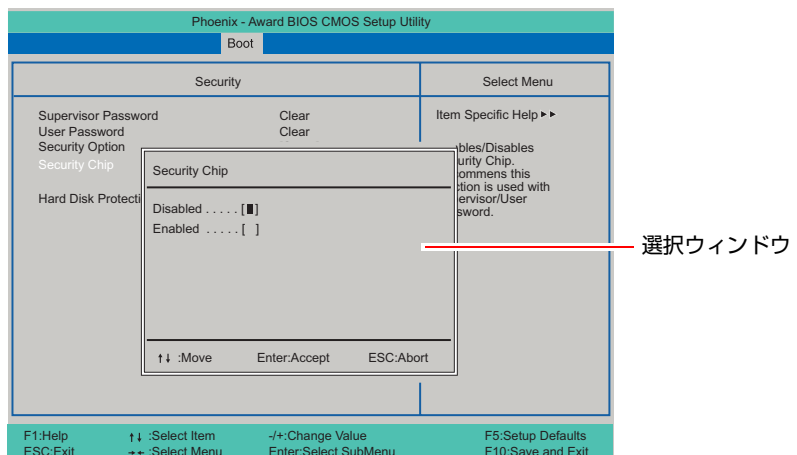
▶のある項目の場合、↵を押すとサブメニュー画面が表示されます。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

サブメニュー画面から戻るには **Esc** を押します。











2 設定値を変更します。

↵を押して選択ウィンドウを表示し、↑ ↓ で値を選択し↵で決定します。



キー操作

BIOSの画面を操作するときは、次のキーを使用します。


| キー | 操作できる内容 |
|---|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"> ● 変更した内容を破棄し、終了します。 ● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。 |
|  ,  | 設定を変更する項目を選択します。 |
|  ,  | 処理メニューを選択します。 |
|  ,  | 項目の値を変更します。 |
|  | <ul style="list-style-type: none"> ● メニュー画面中の▶のある項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。 |
|  | 全設定項目の値を、初期値に変更します。 |
|  | 変更した設定値を保存して終了します。 |

▶BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setupユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Save & Exit Setup (変更した内容を保存し終了する)

変更した設定値を保存して、BIOS Setupユーティリティを終了します。

- 1 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Save & Exit Setup」を選択すると、次のメッセージが表示されます。


Save configuration changes and exit now?

[YES] [NO]

- 2 [YES] を選択し、を押します。

Exit Without Saving (変更した内容を破棄し終了する)

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。

- 1 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit Without Saving」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Quit Without Saving (Y/N) ?

[YES] [NO]

- 2 [YES] を選択し、を押します。

▶設定値をもとに戻す

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Optimized Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティの設定を初期値に戻す手順は、次のとおりです。

- 1 **F5** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Optimized Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

| |
|---------------------------------|
| Load Optimized Defaults (Y/N) ? |
| [YES] [NO] |

- 2 **[YES]** を選択して、**↵** を押します。

Load Optimized Defaults実行後の作業

次のような場合は、Load Optimized Defaultsを実行したあとに、BIOSの設定値を設定しなおしてください。

<サウンドボードをお使いの場合>

「Advanced」メニュー画面－「Integrated Peripherals」－「Onboard Audio」を「Disabled」に設定します。

メインボード上のサウンド機能を無効にします。

<ネットワークボードをお使いの場合（無線LANボードの場合は不要です）>

「Advanced」メニュー画面－「Integrated Peripherals」－「Onboard LAN Controller」を「Disabled」に設定します。

メインボード上のネットワーク機能を無効にします。

<FDD搭載モデルをお使いの場合>

「Main」メニュー画面－「Legacy Diskette A」を「1.44M, 3.5in.」に設定します。

設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。

 p.60 「Save & Exit Setup（変更した内容を保存し終了する）」

Discard Changes (前回保存した設定値に戻す)

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

| | |
|------------------------------|------|
| Load Previous Values (Y/N) ? | |
| [YES] | [NO] |

- 2 [YES] を選択して  を押します。

▶ Passwordを設定する

パスワードを設定することで、本機を使用するユーザーを限定することができます。Linux起動時や「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワードの入力を要求し、正しいパスワード入力が行われないと本機を使用することができません。

パスワードの設定は、「Boot」メニュー画面にあるPasswordに関する設定項目で行います。

 p.72 「Bootメニュー画面」

パスワードの種類

パスワードには次の2種類があります。


- Supervisor Password (管理者パスワード)
コンピュータの管理者用のパスワードです。このパスワードでBIOSにログインした場合、BIOSのすべての項目を変更することができます。
- User Password (ユーザーパスワード)
そのほかのユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードには、BIOSにログインした際の制限を設定することができます。

アクセス制限の設定

管理者パスワードでBIOSにログインすると、アクセス制限の種類やHDDへのアクセス制限を設定することができます。


アクセス制限の種類

アクセス制限には次の2種類があります。

- Setup
BIOSへのアクセスを制限します。BIOS起動時にパスワード入力が必要されます。
- System
BIOS、Linuxへのアクセスを制限します。BIOS起動時とLinux起動時、パスワード入力が必要されます。
アクセス制限の選択は、 p.72 「Bootメニュー画面」－「Security」－「Security Option」で行います。

HDDへのアクセス制限

管理者パスワードを設定すると、HDDへのアクセス制限を設定することができます。HDDへのアクセス制限を行ったHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。HDDにアクセスするには、BIOS起動時、Linux起動時にパスワードの入力が必要です。

HDDへのアクセス制限の設定は、 p.72 「Bootメニュー画面」－「Security」－「Security Option」で行います。



制限


パスワードを忘れると、アクセス制限を設定したHDDは使用できなくなります。登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。

パスワード入力時の注意


パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

パスワードの設定・変更


管理者パスワードやユーザーパスワードの設定・変更方法は次のとおりです。ユーザーパスワードは、管理者パスワードを設定すると、設定できるようになります。

- 1 「Boot」メニュー画面－「Security」で「Supervisor Password」または、「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:

- 2 パスワードを入力し、 を押します。

「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。

- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。


Confirm Password:

パスワード入力を間違えた場合は、手順1からやり直してください。


- 4 パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Set」に変わります。

パスワードの削除

管理者パスワードおよびユーザーパスワードの削除方法は次のとおりです。
管理者パスワードを削除すると、ユーザーパスワードも同時に削除されます。
管理者パスワードを削除する場合は、BIOS Setupユーティリティ起動時に管理者パスワードを入力してください。

- 1 「Supervisor Password」または「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:

- 2 何も入力せずに  を押すと、次のメッセージが表示されます。

PASSWORD DISABLED!!!

Press any key to continue...

- 3 どれかキーを押すと、パスワードが削除され、「Supervisor Password」または「User Password」項目の表示が「Clear」に変わります。
これでパスワードが削除されました。

▶起動（Boot）デバイスの順番を変更する

本機の電源を入れて起動しようとしたときに、リムーバブルディスク（USBフラッシュメモリやUSB HDDなど）を接続していたり、USB FDDにFDがセットされていると、Linuxが起動しないことがあります。

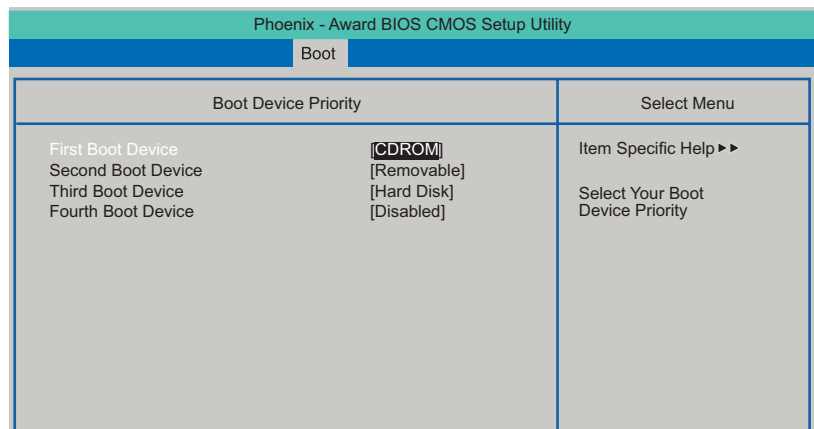
このような場合、「BIOS Setupユーティリティ」で設定されている起動（Boot）デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動（Boot）デバイスの順番の変更方法

起動（Boot）デバイスの順番の変更は、「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で行います。

起動（Boot）デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここでは、リムーバブルディスクを接続した状態でLinuxを起動できるよう、設定を変更する方法を説明します。

- 1 「Boot」メニュー画面の「Boot Device Priority」を選択して \leftarrow を押し、サブメニュー画面を表示します。



<サブメニュー画面>

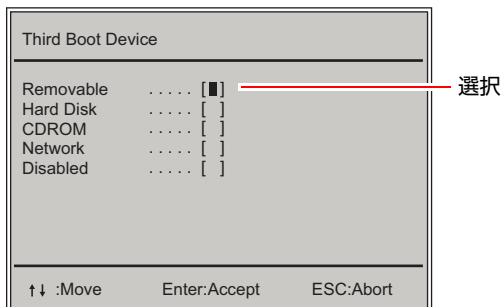
「Boot Device Priority」に表示されるデバイスは次のとおりです。

- Removable（USB FDDやUSBフラッシュメモリ、USB HDDなど）
- Hard Disk（接続されているHDD）
- CDROM（接続されている光ディスクドライブ）
- Network（ネットワーク）
- Disabled（検出するデバイスを割り当てないときに設定します）

- 2 \uparrow \downarrow で「Third Boot Device」を選択し、 \leftarrow を押します。

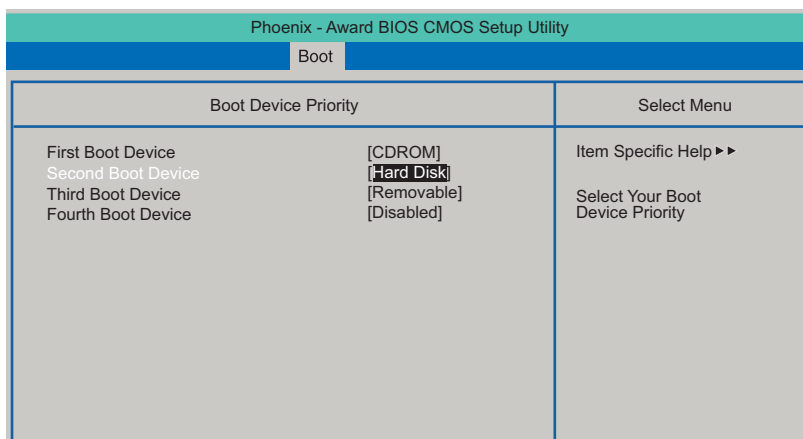
選択ウィンドウが表示されます。

- 3**   で「Removable」を選択し、 を押します。
「Removable」の順番が3番目になります。



<選択ウィンドウ>

- 4** 同様の方法で「Second Boot Device」(2番目)を「Hard Disk」に変更します。



これで、起動（Boot）デバイスの変更は完了です。
リムーバブルディスクを接続した状態でLinuxを起動できます。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

ここでは、「BIOS Setupユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- **Mainメニュー画面**
日付、時間、HDDなどの設定を行います。
- **Advancedメニュー画面**
CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。
- **Power メニュー画面**
省電力機能に関する設定を行います。
- **Bootメニュー画面**
システムを起動するドライブの設定や本機の動作状態、パスワードの設定などを行います。
- **Exitメニュー画面**
BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻したりします。

▶Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間、HDDなどの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

___は初期値

*は項目表示のみ

| | | |
|--|------------------------------------|---|
| System Time (hh:mm:ss) | | 時刻を設定します。(時間：分：秒)の順で表示されます。 |
| System Date (mm:dd:yy) | | 日付を設定します。(曜日 月/日/年)の順で表示されます。 |
| Legacy Diskette A | | 接続しているFDDのタイプを選択します。 Disabled : FDD未接続の場合 1.44M, 3.5in. : 3.5型1.44MB対応FDD搭載の場合 |
| Primary Master Primary Slave Secondary Master Secondary Slave Third Master Third Slave Fourth Master Fourth Slave | LBA Mode | LBA (Logical Block Addressing) Modeの設定をします。 初期値 [Auto] のまま使用します。 |
| | *Device | IDE 装置の機器の名称を表示します。 |
| | *Vendor | IDE 装置の型番を表示します。 |
| | *Size | HDDの容量を表示します。 |
| | *Ultra DMA | Ultra DMA 対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。 |
| | *PIO Mode | IDE 装置の転送モードを表示します。 |
| | *SMART Monitoring | S.M.A.R.T (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) をサポートしているかどうかを表示します。 |
| IDE装置の仕様を設定します。 | SMART Monitoring | 初期値 [Disabled] のまま使用します。 |
| ※表示される詳細項目は、選択するドライブにより異なります。 | | |
| IDE Configuration IDE 装置の仕様を設定します。 | On-Chip Primary PCI IDE | 初期値 [Enabled] のまま使用します。 |
| | *** On-Chip Serial ATA Setting *** | S-ATAの設定をします。 |
| | On-Chip Serial ATA | 初期値 [Enhanced Mode] のまま使用します。 |
| | *PATA IDE Mode | PATA IDE Modeの設定を表示します。 |
| System Information 本機の仕様を表示します。 | *BIOS Version | BIOSの情報を表示します。 |
| | *Installed Memory | 本機に搭載されているメモリ容量の情報を表示します。 |

▶ Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。

設定項目は、次のとおりです。

___は初期値

*は項目表示のみ

| | | |
|---|--|--|
| CPU Configuration 本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。 | *Manufacturer | メーカーを表示します。 |
| | *Brand String | 型番を表示します。 |
| | *Frequency | 周波数を表示します。 |
| | *FSB Speed | バススピードを表示します。 |
| | *Cache L1 | CPUのL1キャッシュ容量を表示します。 |
| | *Cache L2 | CPUのL2キャッシュ容量を表示します。 |
| | *Cache L3 | CPUのL3キャッシュ容量を表示します。 |
| | *Ratio Status | CPUクロックの設定を表示します。 |
| | *Ratio Actual Value | ベースクロックに対する倍率を表示します。 |
| | Hyper-Threading Technology | ハイパー・スレディング機能の有効/無効を設定します。ハイパー・スレディング機能を持つプロセッサ搭載時のみ表示されます。 Disabled：無効にします。 Enabled：有効にします。 |
| | Virtualization Technology ※Linuxでは非対応 | Intel Virtualization Technologyの有効/無効を設定します。Virtualization Technologyを持つプロセッサ搭載時のみ表示されます。 Disabled：無効にします。 Enabled：有効にします。 |

| | | |
|---|------------------------|---|
| Integrated Peripherals メインボード上のデバイスに関する設定をします。 | Onboard Audio | メインボード上のサウンド機能を使用するかを設定します。 <u>Enabled</u> : 使用します。 Disabled : 使用しません。 |
| | Onboard LAN Controller | メインボード上のネットワーク機能を使用するかを設定します。 <u>Enabled</u> : 使用します。 Disabled : 使用しません。 |
| | Onboard LAN Boot ROM | 「Onboard LAN」で「Enabled」を選択すると表示されます。 リモートブート機能の有効/無効を設定します。 <u>Disabled</u> : リモートブート機能を無効にします。 Enabled : リモートブート機能を有効にします。 |
| | Onboard Serial Port | シリアルポートのアドレスとIRQ信号を設定します。 Disabled : シリアルポートを使用しません。 3F8/IRQ4, <u>2F8/IRQ3</u> , 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3, Auto |
| | Onboard Parallel Port | パラレルポートが使用するアドレスを設定します。 Disabled : パラレルポートを使用しません。 <u>378/IRQ7</u> , 278/IRQ5, 3BC/IRQ7 |
| | Parallel Port Mode | パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。 <u>Standard</u> : 標準の設定です。 SPP : SPPモードに設定します。 EPP 1.7 : EPP 1.7モードに設定します。 EPP 1.9 : EPP 1.9モードに設定します。 ECP : ECPモードに設定します。 ECP+EPP : ECP+EPPモードに設定します。 |
| PnP/PCI Configurations PCIPnPに関する設定をします。 | PNP OS Installed | OSインストールのための設定です。初期値 [No] のまま使用します。 |
| USB Configuration USBコントローラの設定をします。 | USB Controller | 初期値 [Enabled] のままで使用します。 |
| | USB2.0 Controller | USBの転送速度を設定します。 <u>Enabled</u> : USB2.0の転送速度で使用します。 Disabled : USB1.1の転送速度で使用します。 |

▶ Power メニュー画面

「Power」メニュー画面では、省電力機能に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。


____は初期値


*は項目表示のみ

| | | |
|-----------------------------------|---------------------------|---|
| Suspend to RAM ※Linuxでは使用しません。 | | スタンバイの設定をします。 Enabled : メモリ以外の電源が切れるため、消費電力はほとんどありません。 Disabled : 不必要な電源が切れます。電力消費は通常より若干抑えられる程度です。 |
| APM Configuration | Restore on AC Power Loss | 電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかどうかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピュータの同時起動を行うと、コンピュータの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますので、ご注意ください。 Off : 電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 On : 電源オフ時に、電源が供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。 Former-Sts : コンピュータの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断された後に電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。 コンピュータを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピュータは起動しません。 |
| | Power On by PCI device | PCI接続のネットワークボードから起動するかどうかを設定します。 Disabled : 起動しない Enabled : 起動する |
| | Power On by PCI-Ex device | メインボードのネットワークから起動するかどうかを設定します。 Disabled : 起動しない Enabled : 起動する |
| | Power On by Alarm | タイマーで起動するかどうかを設定します。 Disabled : 起動しない Enabled : 起動する |
| | Date (of Month) Alarm | タイマーを起動する日を設定します。 |
| | Time (hh:mm:ss) Alarm | タイマーを起動する時間を設定します。 |

▶ Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定とSecurityの設定を行います。

Bootの順番の変更方法については、 p.65 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。

Security項目のパスワードの設定方法については、 p.62 「Passwordを設定する」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

____は初期値

*は項目表示のみ

| | | |
|-----------------------------|------------------------|---|
| システムを起動するドライブの順番を設定します。 | First Boot Device | 1番目に起動するドライブを設定します。 初期値は「CDROM」（光ディスクドライブ）です。 |
| | Second Boot Device | 2番目に起動するドライブを設定します。 初期値は「Removable」（FDD）です。 |
| | Third Boot Device | 3番目に起動するドライブを設定します。 初期値は「Hard Disk」（HDD）です。 |
| | Fourth Boot Device | ネットワークから起動する場合は、「Advanced」メニュー画面－「Integrated Peripherals」－「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」（有効）に設定し、「Network」を選択します。初期値は「Disabled」になっています。 |
| Hard Disk Boot Priority | | HDDの優先順位を設定します。初期値のまま使用します。 |
| CD-ROM Boot Priority | | 光ディスクドライブの優先順位を設定します。初期値のまま使用します。 |
| Removable Device Priority | | リムーバブルデバイスの優先順位を設定します。リムーバブルデバイス接続時のみ表示されます。 |
| Network Boot Priority | | ネットワークの優先順位を設定します。ネットワーク起動設定時のみ表示されます。 |
| Boot Settings Configuration | Boot Up NumLock Status | DOS起動時のNum Lockの状態を設定します。 Off：Num Lockオフの状態にします。 <u>On</u> ：Num Lockオンの状態にします。 |
| | Full Screen LOGO Show | 起動時にロゴを表示するかどうかを設定します。 Disabled：表示しません。 <u>Enabled</u> ：表示します。 |

| | | |
|-----------------------------------|----------------------|---|
| Security セキュリティ機能 の設定を行います。 | Supervisor Password | <p>管理者パスワードを設定します。</p> <p> p.62 「Passwordを設定する」</p> <p><u>Clear</u> : パスワードが設定されていません。</p> <p><u>Set</u> : パスワードが設定されています。</p> |
| | User Password | <p>管理者パスワードを設定すると、設定可能になります。</p> <p>ユーザーパスワードを設定します。</p> <p> p.62 「Passwordを設定する」</p> <p><u>Clear</u> : パスワードが設定されていません。</p> <p><u>Set</u> : パスワードが設定されています。</p> |
| | Security Option | <p>管理者パスワードを設定すると設定が有効になります。</p> <p>アクセス制限の種類を選択します。</p> <p><u>Setup</u> : BIOS起動時にパスワード入力が必要です。</p> <p><u>System</u> : BIOS起動時とLinux起動時にパスワード入力が必要です。</p> <p>※「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定した場合は、自動的に「System」に設定されます。</p> |
| | Hard Disk Protection | <p>管理者パスワードを設定すると設定が有効になります。</p> <p>HDDへのアクセス制限の設定をします。アクセス制限を行ったHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。</p> <p>HDDにアクセスするには、BIOS起動時、Linux起動時にパスワードの入力が必要です。</p> <p><u>Disabled</u> : HDDへのアクセスを制限しません。</p> <p><u>Enabled</u> : HDDへのアクセスを制限します。</p> |
| ※TPMはLinuxでは動作しません。 | Security Chip | <p>セキュリティチップ (TPM) の機能を使用するかを設定します。</p> <p><u>Disabled</u> : 使用しません。</p> <p><u>Enabled</u> : 使用します。</p> |
| | Clear Security Chip | <p>「Security Chip」を「Enabled」に設定すると表示されます。</p> <p>セキュリティチップ (TPM) に保存されている情報を初期化します。初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用することができなくなります。セキュリティチップ (TPM) の初期化は、十分に注意し、お客様の責任において行ってください。</p> <p>セキュリティチップ (TPM) の情報を初期化する場合は、[Enter] を選択し、「Setup Warning」画面が表示されたら、[YES] を選択します。「Setup Confirmation」画面が表示されたら、[YES] を選択すると、情報が初期化され、コンピュータが再起動します。</p> |

▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。設定項目は、次のとおりです。

| | |
|-------------------------|--|
| Save & Exit Setup | 変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。 |
| Exit Without Saving | 変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。 |
| Discard Changes | BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。 |
| Load Optimized Defaults | BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。 |

▶BIOSの設定値

BIOS Setupユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Main メニュー画面

| 項目 | 購入時の設定 | | 変更内容 | |
|-------------------|----------|---------------|----------|---------------|
| Legacy Diskette A | Disabled | 1.44M, 3.5in. | Disabled | 1.44M, 3.5in. |

Advanced メニュー画面

| 項目 | | 購入時の設定 | | | 変更内容 | | | | |
|------------------------|----------------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| CPU Configuration | Hyper-Threading Technology | Disabled | Enabled | | Disabled | Enabled | | | |
| | Virtualization Technology | Disabled | Enabled | | Disabled | Enabled | | | |
| Integrated Peripherals | Onboard Audio | Disabled | Auto | | Disabled | Auto | | | |
| | OnBoard LAN Controller | Disabled | Enabled | | Disabled | Enabled | | | |
| | OnBoard LAN Boot ROM | Disabled | Enabled | | Disabled | Enabled | | | |
| | Onboard Serial Port | Disabled | 3F8/IRQ4 | 2F8/IRQ3 | Disabled | 3F8/IRQ4 | 2F8/IRQ3 | | |
| | Onboard Parallel Port | Disabled | 378/IRQ7 | 278/IRQ5 | 3BC/IRQ7 | Disabled | 378/IRQ7 | 278/IRQ5 | 3BC/IRQ7 |
| | Parallel Port Mode | Standard | SPP | EPP 1.7 | EPP 1.9 | Standard | SPP | EPP 1.7 | EPP 1.9 |
| | | ECP | ECP+EPP | | ECP | ECP+EPP | | | |
| PnP/PCI Configuration | Plug And Play O/S | No | Yes | | No | Yes | | | |

| 項目 | | 購入時の設定 | | 変更内容 | |
|-------------------|-------------------|----------|---------|----------|---------|
| USB Configuration | USB2.0 Controller | Disabled | Enabled | Disabled | Enabled |

Power メニュー画面

| 項目 | | 購入時の設定 | | 変更内容 | |
|-------------------|---------------------------|------------|---------|------------|---------|
| Suspend to RAM | | Disabled | Enabled | Disabled | Enabled |
| APM Configuration | Restore on AC Power Loss | Former-Sts | On Off | Former-Sts | On Off |
| | Power On by PCI device | Disabled | Enabled | Disabled | Enabled |
| | Power On by PCI-Ex device | Disabled | Enabled | Disabled | Enabled |
| | Power On by Alarm | Disabled | Enabled | Disabled | Enabled |

Boot メニュー画面

| 項目 | | 購入時の設定 | | 変更内容 | |
|-----------------------------|-----------------------|----------|---------|----------|---------|
| Boot Device Priority | First Boot Device | Disabled | () | Disabled | () |
| | Second Boot Device | Disabled | () | Disabled | () |
| | Third Boot Device | Disabled | () | Disabled | () |
| | Fourth Boot Device | Disabled | () | Disabled | () |
| Boot Settings Configuration | BootUp NumLock Status | Off | On | Off | On |
| | Full Screen LOGO Show | Disabled | Enabled | Disabled | Enabled |
| Security | Supervisor password | Clear | Set | Clear | Set |
| | User password | Clear | Set | Clear | Set |
| | Security Option | Setup | System | Setup | System |
| | Hard Disk Protection | Disabled | Enabled | Disabled | Enabled |
| | Security Chip | Disabled | Enabled | Disabled | Enabled |

付録

本機をご使用になる際に役に立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

お手入れ

▶本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。



制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、メインボード上のリチウム電池により保持されます。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

- CR2032（または同等品）

リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況により異なりますが、寿命は約3年です。

リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、BIOS Setupユーティリティで設定した値が何もしないのに変わってしまいます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。



- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- コンセントに電源プラグを接続したままで作業をしないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



- 内蔵リチウム電池の交換は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



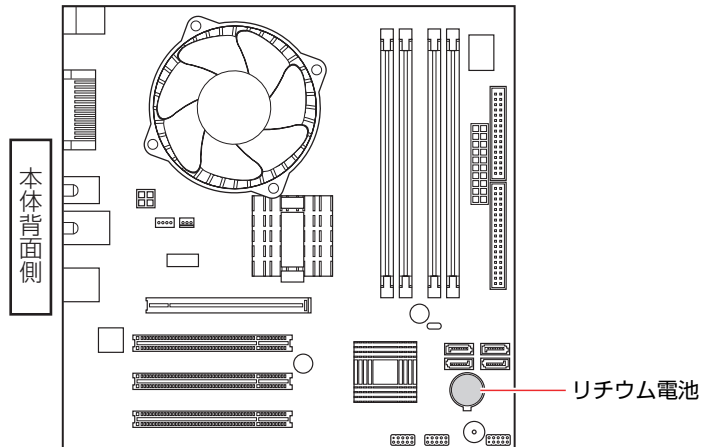
- リチウム電池の交換を行うと、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。リチウム電池の交換を行う前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。
- 本機の電源を切っても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電気が流れています。作業を始める前に、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

リチウム電池を交換する手順は、次のとおりです。作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。


- 1 コンピュータ本体および接続している周辺機器の電源を切ります。**
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 コンピュータ本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。**
- 3 本体カバー（左側）を取り外します。**

4 リチウム電池の位置を確認します。

リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。



5 作業の妨げになる拡張ボードがあれば、取り外します。

 p.35 「拡張ボードの取り付け・取り外し」

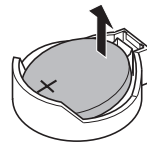
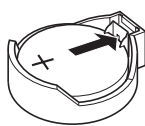
6 リチウム電池を抜きます。

(1) 電池ホルダの留め金を押します。

(2) リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。

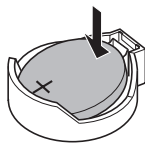
(1)

(2)




7 新しいリチウム電池を取り付けます。


刻印面 (+側) が表側になるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。取り付けると「カチッ」と音が鳴ります。






8 手順5で拡張ボードを取り外した場合は、もとどおりに取り付けます。

 p.35 「拡張ボードの取り付け・取り外し」

9 本体カバー（左側）を取り付けます。

 p.22 「本体カバーの取り外し・取り付け」

10 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

- 11** コンピュータの電源を入れます。
- 12** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「CMOS checksum error - Defaults loaded」と表示されたら、を押して、BIOS Setupユーティリティを実行します。
 p.58 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 13** 「Exit」メニュー画面－「Load Optimized Defaults（初期値に戻す）」を実行します。
 p.61 「Load Optimized Defaults（初期値に戻す）」
- 14** 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。
- 15** 「Exit」メニュー画面－「Save & Exit Setup」を選択してBIOS Setupユーティリティを終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。BIOS Setupユーティリティで設定したパスワードを忘れたり、BIOSの設定を誤ったりして本機が起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になります。





- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- コンセントに電源プラグを接続したままで作業しないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。












- CMOS RAMの初期化は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。
 p.74 「BIOSの設定値」
- BIOS で管理者パスワードを設定し、HDD のアクセスを制限していた場合、CMOS RAMの初期化を行っても、HDDへのアクセス制限を解除することはできません。HDDへのアクセス制限を設定したHDDは、管理者パスワードを忘れると使用できなくなります。
 p.62 「Passwordを設定する」 - 「アクセス制限の設定」 - 「HDDへのアクセス制限」
- 本機の電源を切っているにもかかわらず、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電気が流れています。作業を始める前に、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

CMOS RAMの初期化の手順は、次のとおりです。作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

- 1** コンピュータ本体および接続している周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。

- 3** 本体カバー（左側）を取り外します。
 p.22 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** 拡張の妨げになる拡張ボードがあれば、取り外します。
 p.35 「拡張ボードの取り付け・取り外し」
- 5** リチウム電池を取り外します。
 p.79 「リチウム電池の交換」手順6
- 6** 約1分間放置します。
- 7** リチウム電池を取り付けます。
 p.79 「リチウム電池の交換」手順7
- 8** 手順4で拡張ボードを取り外した場合は、もとどおりに取り付けます。
 p.35 「拡張ボードの取り付け・取り外し」
- 9** 本体カバー（左側）を取り付けます。
 p.22 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 10** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。
- 11** コンピュータの電源を入れます。
- 12** 「EPSON」と表示後、「CMOS checksum error - Defaults loaded」と表示されたら、 を押して、BIOS Setupユーティリティを実行します。
 p.58 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 13** 「Exit」メニュー画面－「Load Optimized Defaults（初期値に戻す）」を実行します。
 p.61 「Load Optimized Defaults（初期値に戻す）」
- 14** 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。
- 15** 「Exit」メニュー画面－「Save & Exit Setup」を選択してBIOS Setupユーティリティを終了します。

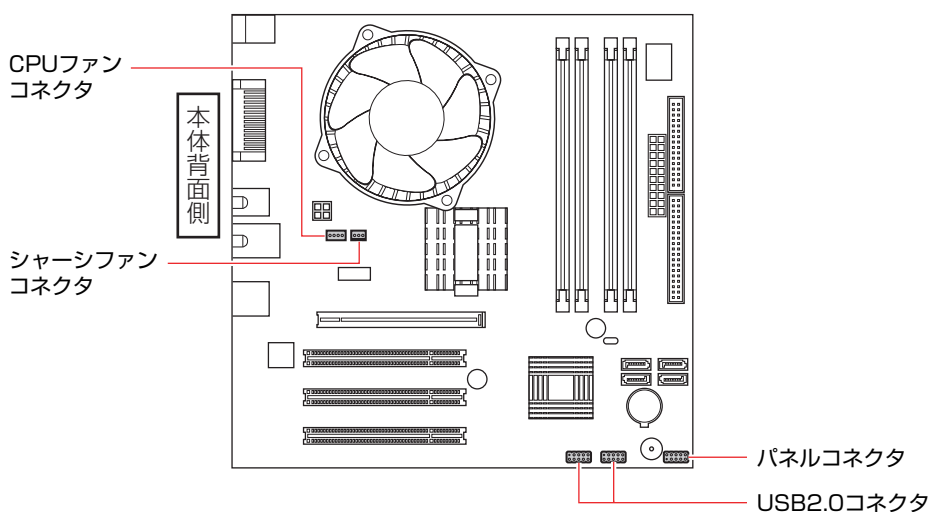
コンピュータ内部のケーブル接続

本機の内部には何本かのケーブルがあり、メインボードに接続されています。通常はこれらのケーブルを外したり接続したりする必要はありません。誤って外してしまった場合には、次の図を参照して、正しく接続してください。



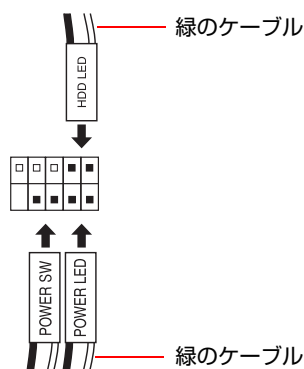
各種ケーブルは、本書で指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。

コネクタ位置 (メインボード上)



パネルコネクタ

パネルコネクタには、次のようにケーブルを接続します。



警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。

処置を行ってもなおらない場合には、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、テクニカルセンターまでご連絡ください。

| 警告メッセージ | 説明および対処法 |
|--|--|
| Floppy disk(s) fail | FDDが検出できません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。 |
| DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER | HDDが検出できません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。 |
| CPU temperature too high | CPUが高温になっています。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。 |
| CPU FAN rotating lower than 500rpm!!! | CPUファンが正常に動作していません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。 |
| CPU over voltage error | CPUの電源電圧が異常です。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。 |
| Chassis FAN rotating lower than 400 rpm !!! | シャーシファンが正常に動作していません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。 |

機能仕様一覧

| | | |
|-----------------|-----------------|--|
| CPU | プロセッサ | インテル Core 2 Duo プロセッサ、インテル Pentium Dual Core プロセッサ、インテル Pentium D プロセッサ、インテル Pentium 4 プロセッサ、インテル Celeron プロセッサ、インテル Celeron D プロセッサ |
| | ソケット | LGA775Socket |
| チップセット | | インテル945G Express+ICH7 |
| BIOS | | Phoenix-Award BIOS |
| セキュリティチップ (TPM) | 対応規格 | TPM 1.2 (TPMはLinuxでは動作しません) |
| | コントローラ | Infineon SLB9635TT 1.2 |
| メインメモリ | | PC2-4200 (DDR2-533 SDRAM) を使用して最大3GBまで搭載可能 |
| ビデオ | メモリ | メインメモリより16MBを使用 |
| | コントローラ | インテル945G内蔵 Intel Graphics Media Accelerator 950 |
| サウンドコントローラ | | インテル ハイ・デフィニション・オーディオ |
| 記憶装置 | HDD | 1台内蔵 (S-ATA II) (容量、台数は購入時の選択による) |
| | 光ディスクドライブ | 1台内蔵 (種類、台数は購入時の選択による) |
| | FDD (オプション) | オプション選択された場合、3.5型FDDを1台内蔵 |
| インタフェース | USB | 6 : USB2.0 (前面側×2、背面側×4) |
| | LAN | 1 : RJ-45 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T対応 自動認識 |
| | サウンド | フロントスピーカ/ライン出力コネクタ×1、センタースピーカ/サブウーファ出力コネクタ×1、リアスピーカ出力コネクタ×1、サイドスピーカ出力コネクタ×1、ライン入力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1 |
| | ディスプレイ | 1 : アナログRGB ミニD-SUB 15ピン |
| | キーボード | 1 : IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン |
| | マウス | 1 : IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン |
| | パラレル | 1 : セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート |
| | シリアル | 1 : RS-232C準拠 D-SUB 9ピン |
| | ドライブベイ | 3.5型ドライブベイ |
| 5.25型ドライブベイ | | 2 |
| HDDベイ | | 3 |
| 外部拡張スロット | PCI Express x16 | 1 : ボード長230mmまで搭載可能 |
| | PCI | 1 : ボード長190mmまで搭載可能 2 : ボード長312mm (フルサイズ) まで搭載可能 |
| キーボード | | 109 PS/2キーボードまたは106 PS/2コンパクトキーボード |
| マウス | | ホイール付PS/2マウス |
| カレンダー時計内蔵 | | 内蔵リチウム電池によりバックアップ |
| 電源容量 | | 300W |
| 入力電圧 | | AC100V~240V (50/60 Hz) ※AC100Vでのみ動作保証 |
| 温湿度条件 | | 温度 : 10~35℃ 湿度 : 20~80% (ただし、結露しないこと) |
| 外形寸法 (縦置き時) | | 本体 : 約179 (幅) ×406 (奥行) ×368 (高さ) mm (突起部除く) |
| 質量 | | 本体 : 約10.4kg (最小構成時) |
| 消費電力 | | 462W (最大) / 3.3W (電源オフ時) |

Memo

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼働システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用は意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人 電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピュータには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。

上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。

なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保障期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

JIS C 61000-3-2適合品

本製品は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

PCリサイクルマークについて



PCリサイクルマーク付きの弊社製品は、弊社が無償で回収、再資源化いたします。詳細は下記ホームページをご参照ください。

<http://www.epson.jp/ecology>

著作権保護法について

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Core Inside、Intel SpeedStep、Pentium、CeleronはIntel Corporationの商標です。

PS/2はInternational Business Machinesの登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

 **epsondirect.jp**



大豆油インキを
使用しています。



このユーザーズマニュアルは
古紙配合率100%再生紙を使用しています。

